

令和6年度

中学校長会

紀要



宮城県中学校長会

◇ 活動方針 .....	1																				
◇ 宣言・決議 .....	2																				
◇ 巻頭言「一枚岩となって」 .....	3																				
◇ 令和6年度役員名簿 .....	4																				
◇ 令和6年度会務分掌 .....	5																				
◇ 令和6年度事業実施状況 .....	6～8																				
◇ 各部の活動報告 .....	9～13																				
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>○総務部</td> <td>部長 熊谷 正広</td> <td>.....</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>○研究部</td> <td>部長 阿部 一彦</td> <td>.....</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>○行財政部</td> <td>部長 小松 昭</td> <td>.....</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>○情報部</td> <td>部長 佐々木 晃</td> <td>.....</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>○指導部</td> <td>部長 万城目堅也</td> <td>.....</td> <td>13</td> </tr> </table>		○総務部	部長 熊谷 正広	.....	9	○研究部	部長 阿部 一彦	.....	10	○行財政部	部長 小松 昭	.....	11	○情報部	部長 佐々木 晃	.....	12	○指導部	部長 万城目堅也	.....	13
○総務部	部長 熊谷 正広	.....	9																		
○研究部	部長 阿部 一彦	.....	10																		
○行財政部	部長 小松 昭	.....	11																		
○情報部	部長 佐々木 晃	.....	12																		
○指導部	部長 万城目堅也	.....	13																		
◇ 宮城県中学校体育連盟の動き .....	会長 洞口 乃 .....14, 15																				
◇ 各地区校長会の動き .....	16～25																				
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>○大河原地区</td> <td>会長 小原 彰</td> <td>.....</td> <td>16, 17</td> </tr> <tr> <td>○仙台地区</td> <td>会長 高野 薫</td> <td>.....</td> <td>18, 19</td> </tr> <tr> <td>○北部地区</td> <td>会長 名取 秀樹</td> <td>.....</td> <td>20, 21</td> </tr> <tr> <td>○本吉地区</td> <td>会長 尾形 浩明</td> <td>.....</td> <td>22, 23</td> </tr> <tr> <td>○東部地区</td> <td>会長 山内 芳明</td> <td>.....</td> <td>24, 25</td> </tr> </table>		○大河原地区	会長 小原 彰	.....	16, 17	○仙台地区	会長 高野 薫	.....	18, 19	○北部地区	会長 名取 秀樹	.....	20, 21	○本吉地区	会長 尾形 浩明	.....	22, 23	○東部地区	会長 山内 芳明	.....	24, 25
○大河原地区	会長 小原 彰	.....	16, 17																		
○仙台地区	会長 高野 薫	.....	18, 19																		
○北部地区	会長 名取 秀樹	.....	20, 21																		
○本吉地区	会長 尾形 浩明	.....	22, 23																		
○東部地区	会長 山内 芳明	.....	24, 25																		
◇ 各地区研究報告 .....	26～43																				
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>○大河原地区</td> <td>研究部長 川村 陽一</td> <td>.....</td> <td>26～27</td> </tr> <tr> <td>○仙台地区</td> <td>研究部長 高橋 睦子</td> <td>.....</td> <td>28～31</td> </tr> <tr> <td>○北部地区</td> <td>研究部長 野家 智昭</td> <td>.....</td> <td>32～35</td> </tr> <tr> <td>○本吉地区</td> <td>研究部長 吉川 泉</td> <td>.....</td> <td>36～39</td> </tr> <tr> <td>○東部地区</td> <td>研究部 後藤 正章</td> <td>.....</td> <td>40～43</td> </tr> </table>		○大河原地区	研究部長 川村 陽一	.....	26～27	○仙台地区	研究部長 高橋 睦子	.....	28～31	○北部地区	研究部長 野家 智昭	.....	32～35	○本吉地区	研究部長 吉川 泉	.....	36～39	○東部地区	研究部 後藤 正章	.....	40～43
○大河原地区	研究部長 川村 陽一	.....	26～27																		
○仙台地区	研究部長 高橋 睦子	.....	28～31																		
○北部地区	研究部長 野家 智昭	.....	32～35																		
○本吉地区	研究部長 吉川 泉	.....	36～39																		
○東部地区	研究部 後藤 正章	.....	40～43																		
◇ 編集後記 .....	44																				



総会風景



開会の挨拶 会長 橋元 伸二



祝辞 副教育長 千葉 潤一 氏



バッチ受領の様子

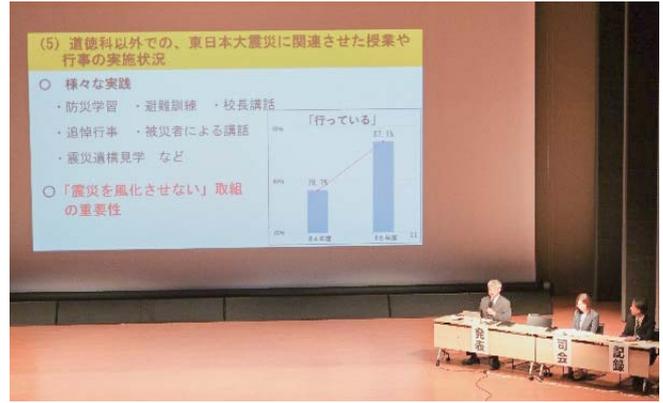


新会員代表挨拶

【第42回 宮城県中学校長会研究協議会本吉大会（10月9日）】



開会行事の様子



研究発表（東部地区）の様子



研究発表（仙台地区）の様子



記念講演の様子

【第75回 全日本中学校長会研究協議会岩手大会（10月17, 18日）】



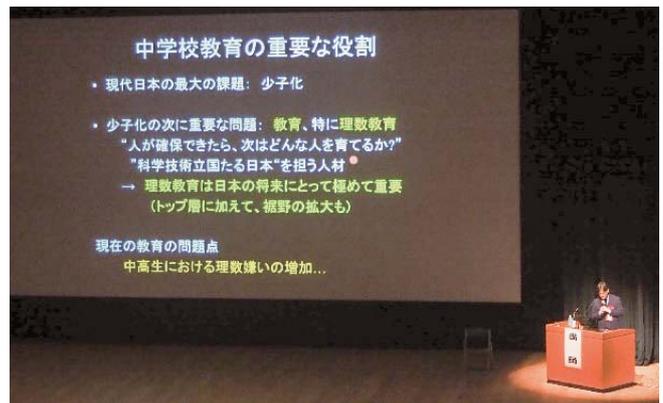
大会会長あいさつ



全体協議会



アトラクション（矢巾北中特設合唱部）



記念講演

# 令和6年度 宮城県中学校長会活動方針

今日、我が国では、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが進行している。

教育界では、教育基本法及び教育関連法規の改正や教育機会確保法の制定をはじめ、第4期教育振興基本計画策定など一連の教育改革が行われ、新たな制度の構築や学習指導要領の改訂により、その趣旨や内容に基づく教育課程の編成・実施に加えて「GIGAスクール構想」や「部活動の在り方」、更には「学校における働き方改革」など、「令和の日本型学校教育」の実現が求められている。

この時にあたり、私たち中学校長は、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、Society5.0時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮し、「学校における働き方改革」の実現を含め、学校からの教育改革を推進しなくてはならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災からの復興・再生や多発する災害への対応等が求められる中、教育の充実・発展を活動方針の第一の柱とし、全日中新教育ビジョン『学校からの教育改革』を踏まえ、次の方針に基づき、本県中学校教育の一層の充実・発展を期する。

## 1 宮城県中学校長会の機能を充実し、活動の活性化に努める。

- (1) 仙台市中学校長会、小学校、特別支援学校、高等学校の校長会と連携した活動の推進
- (2) 教育研究及び広報活動並びに諸事業の充実
- (3) 関係機関との連携の促進及び教育課題の解決と提言
- (4) 教育改革に関する迅速な対応と情報の発信

## 2 創意ある教育課程を編成し、確かな学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。

- (1) 学習指導要領の趣旨の実現を図る教育課程の編成、実施、評価、改善
- (2) 基礎・基本の確実な習得と、それらを活用する能力及び学びに向かう力を育てる指導・評価の工夫改善
- (3) 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むための「カリキュラム・マネジメント」の確立

## 3 当面する教育課題の解決に努める。

- (1) 全日中新教育ビジョン『10の提言』の推進と検証
- (2) 東日本大震災で被災した学校への支援
- (3) 多発する自然災害に対応するために、実践につながる防災・安全教育の推進
- (4) 心の教育を中心に据えた生徒指導の推進
- (5) いじめを生まない学校体制の確立
- (6) 多様な学びの確保など不登校支援の充実
- (7) 志教育の視点に立った教育活動の展開
- (8) 特別支援教育への適切な対応

## 4 家庭や地域社会に信頼される学校づくりに努める。

- (1) 地域の一員として信頼される教職員の育成
- (2) 学校改善につながる学校評価システムの工夫（自己評価と学校関係者評価の活用）
- (3) 諸機関との連携を密にした危機管理の徹底
- (4) 教職員の適正な評価による資質向上と教育実践に結びついた現職教育の充実

## 5 教育諸条件の整備・充実と職責に見合う待遇改善の実現に努める。

- (1) 義務教育費国庫負担制度や人材確保法の堅持
- (2) 教育改革推進のための人的配置と学校運営予算の充実
  - ア 教職員の定数改善と学習指導要領の趣旨・内容に即応した人的配置
  - イ 施設・設備の充実と学校裁量予算の増額
- (3) 全ての子どもたちに ICT を活用した学習を保障するための一層のサポート体制や研修、実践の充実
- (4) 教職員の諸手当や旅費等の充実及び待遇改善
- (5) 校長・副校長・教頭の給与体系の改善及び退職時における待遇の改善
- (6) 「学校における働き方改革」を踏まえた部活動の地域移行の在り方の検討
- (7) 適切な人事評価の実施

# 宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる持続可能な社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化する中、新しい時代の中学校教育の課題に対応するとともに、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生と全ての子どもたちの可能性を引き出す学びの充実、教育改革の推進を第一義に、これまでの成果の上にたって、当面する教育課題の解決を図り、特色ある学校づくりに努め、県民の付託にこたえる決意である。

ここに、第75回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

# 決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」や「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一 学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成を推進する。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。
- 一 引き続き「学校における働き方改革」を推進し、教職員の勤務実態を踏まえ、有効かつ持続可能な指導・運営体制の構築を期し、Society5.0時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。
- 一 東日本大震災をはじめ近年多発する災害等により被害を受けた地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と防災教育・安全教育の充実に努める。

令和6年5月31日

宮城県中学校長会



## < 巻 頭 言 >

# 一枚岩となって

宮城県中学校長会 会長 橋元伸二

過去最高と言われた昨夏、昨秋の暑さから打って変わって、数年ぶりに雪の多い冬を迎え、久ぶりにスキー場は賑わっているようです。「私をスキーに連れてって」世代の我々にとって、スキーヤーよりスノーボーダーの方が多いうニュース映像には、正に時代の移り変わりを感じさせられます。

さて、5月の総会で山積する様々な課題に真摯に向き合い、古きも大切にしながら変化にも対応して学びの深化を図る、一体感のある宮城の令和型教育の気概を全会員で共有し、中学校教育の一層の充実発展に努めることを確認してから、早いもので1年が経過しようとしています。アフターコロナも2年目となり、各学校行事をはじめ、校長会関連の事業も過剰に感染症対策をすることなく、順調にここまで進めてまいることができました。会員の皆様に心より感謝申し上げます。

10月には、県中学校長会研究協議会本吉大会と全日中研究協議会岩手大会が開催されました。本吉大会は、昨年同様、2つの地区（仙台・東部）の発表と記念講演を中心とした半日開催で行いました。11人の会員で準備・運営に骨を折っていただいた本吉地区の皆様と発表していただいた仙台・東部地区の皆様に改めて深く御礼申し上げます。コロナ禍以前の1日開催から半日開催とはなりましたが、さらなる負担軽減と内容の充実の観点から、例えば発表を1地区にして、協議を充実させるなどまだ改善の余地があるのではと思っています。

岩手大会では、県大会に引き続き東部地区が震災を教訓とした「生命の尊さ」について道徳の実践発表を行い、全国の参加者から注目を集め、好評を博しました。会議後に5年ぶりに開催された仙台市中学校長会との合同懇親会では、大いに親睦を深めることができ、とても有意義な会となりました。

上記の研究協議会で今年度全会員が参集する会議等は終了しましたが、各会員の皆様には、県や各地区、各部会において研究発表や研修会の話題提供、講師を務めていただき、また、各種調査やアンケートの作成、回答、まとめ等にも御尽力、御協力を賜り、本会の活動の充実にお力添えを頂戴しましたことに衷心より感謝申し上げます。

令和8年度には、中学校長会も80周年を迎えます。現在、仙台市中学校長会と連携し、80年記念誌作成の委員会を立ち上げ、準備を進めているところでございます。会員の皆様にも原稿の執筆をはじめとする協力依頼があるかと思いますが、その際には快くお引き受けいただけますと幸いです。

本年度も、残すところあとわずかとなりましたが、課題は山積しております。総会で「人づくり」の話をさせていただきましたが、何でもありのように見える米国の大統領選挙が、海の向こうの出来事などと言っていられない状況が日本の選挙でも続いており、「情報リテラシー教育」「情報発信に関する法制化」なども喫緊の課題ではないかと考えています。コロナのような想定外の事案もいつ起こるとも限らず、我々校長はこれらの課題に愚直に向き合いマネジメントしなければなりません。日々の社会情勢にも関心を高め、教育委員会や関係諸機関と連携し、校長間での情報交換を密にしながらの対応が欠かせません。県中学校長会は、これからも生徒や職員の安全を守り、安心して学び、働くことができる環境を維持・向上すべく協力、支援する体制をより強固にしていまいりますので、今後とも会員の皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

結びに、本会の1年間の活動の集大成となる本紀要の編集に御尽力いただいた情報部の皆様に感謝申し上げますとともに、本会の益々の発展と会員の皆様の一層の御健勝をお祈りし、挨拶といたします。

# 令和6年度 役員名簿

役員・地区		氏 名	勤務校	役員・地区	氏 名	勤務校		
会 長		橋 元 伸 二	亙 理 中	理 事	古 山 明 宏	築 館 中		
副 会 長	大 河 原	小 原 彰	村 田 一 中		北 部	一 條 一 也	不 動 堂 中	
	仙 台	高 野 薫	塩 竈 一 中			小 野 寺 英 一	中 新 田 中	
	北 部	名 取 秀 樹	古 川 南 中			本 吉	村 上 敬 子	志 津 川 中
	本 吉	尾 形 浩 明	気 仙 沼 中		東 部	菅 原 栄 夫	南 方 中	
	東 部	山 内 芳 明	石 巻 中			黒 沼 俊 郎	矢 本 二 中	
監 事	大 河 原	八 島 信	福 岡 中			平 塚 真 一 郎	青 葉 中	
	仙 台	小 野 美 和	利 府 西 中		宮 中 体 連 副 会 長	木 村 啓	鹿 島 台 中	
理 事	部	総 務	熊 谷 正 広		利 府 中	宮 連 中 教 研 会 長	阿 部 欽 一	東 豊 中
		研 究	阿 部 一 彦		北 上 中	80年誌編集副委員長	加 茂 博 行	岩 沼 北 中
		行 財 政	小 松 昭	松 岩 中	参 与	木 村 真 也	多 賀 城 二 中	
	長	情 報	佐 々 木 晃	古 川 中	事 務 局 〒985-0851 □多賀城市南宮字八幡170 多賀城市立第二中学校内 ・TEL 022(309)1351 ・FAX 022(309)1352 ・E-mail miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp  ◇事務局員 佐々木 奈美子  開設日：週3回（月曜日・水曜日・金曜日） 9時30分～15時30分 （長期休業中：9時30分～12時30分）			
		指 導	万 城 目 堅 也	円 田 中				
大 河 原		渥 美 寿 彦	白 石 中					
		加 藤 敏 充	船 迫 中					
仙 台		菊 池 信 行	大 郷 中					
		池 田 尚 人	岩 沼 中					
		堀 内 恵 理 子	荒 浜 中					
		本 田 正 晴	名 取 二 中					
		渡 邊 真 由 美	岩 沼 西 中					

# 令和6年度 会 務 分 掌

◎印 部 長

○印 副部長

部・地区		氏 名	勤務校	部・地区		氏 名	勤務校
総務部	大河原	加藤敏充	船迫中	情報部	大河原	鈴木直美	富岡中
	仙台	◎熊谷正広	利府中		仙台	○白鳥修	山元中
	北部	古山明宏	築館中		北部	◎佐々木晃	古川中
	本吉	村上敬子	志津川中		本吉	藤山篤	津谷中
	東部	○平塚真一郎	青葉中		東部	飯川弘芳	豊里小・中
研究部	大河原	川村陽一	七ヶ宿中	指導部	大河原	◎万城目堅也	円田中
	仙台	高橋睦子	みどり台中		仙台	田中謙	多賀城中
	北部	○野家智昭	涌谷中		北部	○佐藤勇寿	小牛田中
		三浦美紀	田尻中			後藤玄	古川北中
	本吉	吉川泉	面瀬中		本吉	宮崎明雄	新月中
	東部	◎阿部一彦	北上中		東部	佐々木裕	山下中
後藤正章		湊中	佐々木貴子	東和中			
行財政部	大河原	和田山秀博	大河原中	80年誌編集委員	大河原	嶋原薫	小原小・中
	仙台	○菊池晃子	増田中		仙台	加茂博行	岩沼北中
	北部	阿部剛	栗原南中			小林美佐子	逢隈中
	本吉	◎小松昭	松岩中		北部	菅原健志	金成小中
	東部	和泉千佳子	桃生中		本吉	菅原英二	唐桑中
				東部	宍戸雅治	鳴瀬未来中	

# 令和6年度

# 事業実施状況

## I 行事

宮城県中学校長会				関 連		
月	日	曜	行事名	内 容	東北地区中学校長会	全日本中学校長会
4	18	木	地区会長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度正副会長等の推薦</li> <li>理事会提案事項の審議</li> <li>事務局体制について</li> </ul>		
			理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度事業報告・会計決算報告</li> <li>令和5年度会計監査報告</li> <li>令和6年度役員選出</li> <li>令和6年度活動方針・事業計画(案)</li> <li>令和6年度会計予算(案)・集金計画</li> <li>令和6年度申し合わせ事項(案)</li> <li>令和6年度総会について</li> <li>令和6年度県・市申し合わせ事項(案)</li> <li>全日中、東北地区中岩手大会について</li> </ul>		
			総合部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回各部会</li> <li>正副部長選出・各部活動目標・活動内容等の計画確認</li> </ul>		
			地区会長会兼部長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部計画の確認及び調整 その他</li> </ul>		
5	8	水	地区会長会兼部長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>理事会提案事項の審議</li> </ul>		22日(水) ・第1回基金管理運営委員会 ・第1回常任理事会 会計監査会 22日(水) ・第1回理事会 23日(木), 24日(金) ・第75回総会
			理事会	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度役員・会務分掌確認</li> <li>会則・運営規程・申し合わせ事項の改定</li> <li>第75回宮城県中学校長会総会について</li> <li>各地区の教育情報交換</li> </ul>		
	17	金	仙台市との連絡協議会 担当: 仙台市	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年第3回連絡協議会の確認事項等について</li> <li>今年度の予定及び申し合わせ事項確認</li> <li>県・市中学校長会連携・協力に関する覚書調印</li> <li>「宮城の中学校八十年」編集準備会について</li> </ul>		
31	金	第75回 宮城県中学校長会 理事会・総会・研修会	<総会> ・開会行事 ・議事 ①報告 ②協議 ・宣言決議 ・閉会 <研修会> ☆宮城県教育庁各課行政説明 ・教職員課 ・義務教育課 ・高校教育課 ・特別支援教育課 ・保健体育安全課 ・生涯学習課			
6					28日(金) ・第1回副会長会 ・第1回理事会	
7	5	金	地区会長会兼部長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>総会の反省</li> <li>全日中総会の反省</li> <li>7月理事会・小中合同理事会・研修会について</li> </ul>		
	30	火	理事会  小中合同理事会研修会 (担当: 北部地区小学校長会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全日中・東北中関係報告</li> <li>第1回宮城県・仙台市連絡協議会報告</li> <li>総会の反省</li> <li>岩手大会, 助成金, 私立高連絡会について</li> </ul> 発表 「学校経営」 仙台地区 本田 正晴 名取二中校長		
9	13	金	仙台市との連絡協議会 担当: 仙台市	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度第1回連絡協議会の内容確認</li> <li>令和6年度岩手大会について</li> <li>令和7年度山形大会, 香川大会について</li> </ul>		
	20	金	中間監査会	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間監査</li> </ul>		

宮城県中学校長会				関 連		
月	日	曜	行 事 名	内 容	東北地区中学校長会	全日本中学校長会
10	4	金	地区会長会兼部長会	・理事会提案事項の審議	16日(水) 臨時副会長会 17日(木) 18日(金) 第74回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会 発表「道德教育」 東部地区 阿部 一彦 北上中 校長	16日(水) 第2回常任理事会 第2回理事会 17日(木) 18日(金) 全日中岩手大会 (盛岡市) 発表「道德教育」 東部地区 阿部 一彦 北上中 校長
			理事会・研修会	・第2回宮城県仙台市連絡協議会報告 ・小中学校長会合同研修会の反省 ・県中学校長会研究協議会北部大会について ・令和6年度会計中間報告について ・古岡奨学会について ・令和7年度事業計画(案)について ・各部からの活動報告 ・全日中R6岩手・R7香川大会について ・各種助成事業について ・令和7年度統廃合の確認 ・各地区の教育情報交換 ☆研修 「教育課程」北部地区 小野寺英一 中新田中 校長		
			令和6年度宮城県中学校長会役員・私立高等学校長との連絡会 (担当: 県中学校長会)			
	9	水	第42回宮城県中学校長会研究協議会本吉大会	発表「道德教育」東部地区 阿部 一彦 北上中 校長 「学校経営」仙台地区 高橋 睦子 みどり台中 校長 白鳥 修 山元中 校長		
11						15日(金)(Web) 中間会計監査会 副会長会
1	10	金	地区会長会	・令和7年度役員・会務分掌確認 ・会則・運営規程・申し合わせ事項の改定 ・第76回宮城県中学校長会総会について ・各地区の教育情報交換	31日(金) 令和6年度会計監査会 第2回副会長会 第2回理事会 事務局会	18日(木)(Web) 第2回基金管理運営委員会 第3回常任理事会 19日(金)(Web) 第3回理事会
	16	木	仙台市との連絡協議会 担当: 仙台市	・令和6年度第2回連絡協議会の確認事項等について ・令和7年度宮城県・仙台市の申し合わせ事項の確認 ・令和7年度事業計画について ・全日中香川大会, 東北山形大会について		
2	6	木	地区会長会	・理事会提案事項の審議		14日(金) 事務局長・事務長 会
			理事会・研修会	・宮城県教育委員会連絡 ・全日中理事会・東北地区理事会報告 ・第3回県・市連絡協議会報告 ・令和6年度事業実施状況について ・令和6年度各部活動報告 ・令和7年度事業計画案について ・令和7年度総会について ・古岡奨学会について ・宮城県中体連について ・宮連小中教研について ・各地区情報交換 ☆研修 「生徒指導」本吉地区 村上 敬子 志津川中 校長		
3	17	月	監査会	令和6年度会計監査		

## II 研究・研修

### 1 研究発表

【宮城県中学校長会研究協議会本吉大会】

○10月9日(水)

道德教育：東部地区「よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の推進」

発表者 北上中 阿部 一彦 校長

学校経営：仙台地区「次世代の学校経営を担う人材の育成」

発表者 みどり台中 高橋 睦子 校長  
山元中 白鳥 修 校長

【東北地区中学校長会研究協議会岩手大会・全日本中学校長会研究協議会岩手大会】

○10月17日(木)

道德教育：東部地区「よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の推進」

発表者 北上中 阿部 一彦 校長

【宮城県中学校長会理事会】(小中合同を含む)

○7月30日(火)

学校経営：仙台地区「教職員一人一人の学校参画意識を高める取組と危機管理」

発表者 名取二中 本田 正晴 校長

○10月4日(金)

教育課程：北部地区「夢の統合……そして現実」

発表者 中新田中 小野寺英一 校長

○2月6日(木)

生徒指導：本吉地区「学び支援教室の取組と生徒指導」

発表者 志津川中 村上 敬子 校長

### 2 講演・講話・研修(行政説明含む)

(1) 第75回全日本中学校長会総会 5月23日(木)・24日(金)

「当面する初等中等教育上の諸課題」

文部科学省 初等中等教育局 視学官 藤枝 秀樹 氏

(2) 第75回宮城県中学校長会総会・研修会 5月31日(金)

宮城県教育委員会 6課説明

(3) 第42回宮城県中学校長会研究協議会本吉大会

「人と時を生かす経営～学校教育・校長の学校経営に期待すること」

株式会社 菅原工業 代表取締役 菅原 渉 氏

(4) 第74回東北地区中学校長会研究協議会・第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会

10月17日(木), 18日(金)

「当面する初等中等教育上の諸課題」

文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田村 学 氏

「黄金の國いわて発銀河系經由ブラックホールへの旅」

国立天文台 水沢 VLBI 観測所 所長 本間 希樹 氏

### 3 研究調査及び研究成果、会報の発行

(1) 行財政部

① 人事等に関する調査と提言

② 東日本大震災の復興に向けた調査と提言

③ 教育課程に関する調査と提言

④ いじめ対策についての取組と課題に関する調査と提言

⑤ 県中学校長会財務内容の検討と予算・決算

(2) 情報部

① 会報150号発行(12ページ) ・発行日 令和6年8月1日(木)

・第75回宮城県中学校長会総会 ・新会員抱負(12名)等

② 「紀要」発行・発行日 令和7年3月1日(土)

・活動方針, 各部の活動報告, 地区校長会の動き等

③ 宮城県中学校長会ホームページ更新 ・更新日 令和6年6月, 8月, 9月, 12月, 令和7年3月

(3) 研究部

① 各地区の研究主題や取組状況等について情報交換

② 各地区の取組状況の情報交換

③ 宮城県・東北地区・全日本各中学校長会研究協議会についての情報交換と発表ローテーションの確認

④ 令和6年度東北地区中学校長会研究協議会発表地区(東部地区)より情報提供

(4) 指導部

① 各地区指導部の活動及び学校運営課題についての情報交換

② 各中学校部活動における現状や, 休日の運動部活動における段階的な地域移行に係る各市町村および学校の進捗状況や課題を把握し, 今後の取組に生かしていくため, アンケート調査を県下全中学校対象に実施し, 集計・まとめを行い全会員へ配付

③ 部会開催時の話題提供と研修

(5) 総務部

① 総会に向けた宣言・決議, 活動方針等についての原案作成

② 全日中調査への対応(各調査報告等)

③ 宮城県小・中学校教育充実発展についての小学校側との連絡調整・実施(宮城県教育委員会との懇談会は中止)

④ 宮城県教育委員会への要望書検討(廃止)

⑤ 宮城県・仙台市中学校長会連絡協議会申し合わせ事項の調整及び覚書確認と会議の連絡調整(R6は仙台市担当)

⑥ 関係団体からの各種助成金・補助金・奨学金等の周知及び実務調整

⑦ 令和6年度東北地区中学校長会研究協議会・全日本中学校長会岩手大会参加に向けた連絡調整

⑧ 理事会研修会における行政説明の連絡調整と当日の運営

(6) 特別委員会(「宮城の中学校八十年」編集委員会・準備会)

## III 渉外活動

1 宣言・決議 5月31日(金) 第75回総会

2 市町村教委への要望 地区毎

3 私立高等学校長との連絡会 10月4日(火) R6は県中学校長会担当

## IV 会員慶弔

○宮城県教育功績者表彰 ・尾形 浩明 校長(気仙沼中) ・橋元 伸二 校長(亘理中)

# 各部の活動報告

## 総務部

部長 熊谷正広  
(利府町立利府中学校)



### 1 活動目標

- 各地区中学校長会との連絡提携と融和協力態勢を一層密にする。
- 仙台市中学校長会との連携協力を強化する。

### 2 活動内容

- (1) 活動目標及び活動計画の原案等の諸準備、総会開催の準備、各種研究協議会参加の調整
- (2) 理事会における職能研修計画の作成と連絡調整
- (3) 当面する課題に関する他の部に属さない事項への対応
- (4) 年度末における諸課題の整理集約、運営上の反省に基づく課題把握と次年度の準備
- (5) 小学校長会、公立・私立高等学校、仙台市中学校長会との連携強化についての調整

### 3 活動の概要

- (1) 総務全般
  - ① 仙台市中学校長会との連絡協議会・諸課題の把握（本年度：仙台市担当）
    - 申し合わせ事項の協議と確認
    - 全日中大会参加人数の調整
    - 関係諸団体の把握
    - 令和6年度全日中岩手大会について（令和6年度東北大会を兼ねる）
  - ② 各部との連絡調整
  - ③ 小中合同理事会（本年度：小学校担当）
  - ④ 県中体連、各支援団体への対応
- (2) 総会の運営と研修会運営の連絡調整
  - ① 5月31日（金）第75回総会・研修会
    - 会長あいさつ
    - 議事（報告：事業、決算、役員）
    - 議事（協議：活動計画、事業計画、予算決算）
    - 宣言・決議
- (3) 研究協議会開催、参加に係る連絡調整
  - ① 第74回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会・第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会〔10月17日（木）18日（金）〕
    - 第3分科会発表 東部地区研究部  
「よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実」～命を大切にすることを育む道德教育の推進～  
発表者 阿部 一彦 校長（北上中）

- 宮城県・仙台市中学校長会154名参加
- ② 第42回宮城県中学校長会研究協議会本吉大会〔10月9日（水）〕
    - 道德教育：東部地区（岩手大会に同じ）  
発表者 阿部 一彦 校長（北上中）
    - 学校経営：仙台地区  
「次代の学校経営を担う人材の育成」～学校経営の実践例からの学びを通して～  
発表者 高橋 睦子 校長（みどり台中）  
白鳥 修 校長（山元中）
  - (4) 地区会長会・理事会の運営
    - ① 地区会長会 6回の開催
    - ② 理事会 4回の開催
  - (5) 理事会での研修会開催調整
    - ① 7月30日（火）「学校経営」：仙台地区  
「教職員一人一人の学校参画意識を高める取組と危機管理」  
発表者 本田 正晴 校長（名取二中）
    - ② 10月4日（金）「教育課程」：北部地区  
「夢の統合そして……現実」  
発表者 小野寺英一 校長（中新田中）
    - ③ 2月6日（木）「生徒指導」：本吉地区  
「学び支援教室の取組と生徒指導」  
発表者 村上 敬子 校長（志津川中）
  - (6) 東日本大震災被災校支援に係る対応業務
    - ① ベルマーク教育助成財団支援の対応
  - (7) 私立高等学校との連絡会に係る対応業務  
10月4日（金）ホテル白萩  
※本年度：中学校長会担当
  - (8) 令和7年度以降に向けて
    - ① 令和6年度事業の反省と次年度準備
    - ② 令和7年度総会に向けての準備
    - ③ 令和7年度全日中研究協議会への参加について（香川大会）
    - ④ 各種団体からの義援金への対応と実務（現在はベルマークのみ）
  - (9) その他
    - ① 古岡奨学会への対応等
    - ② 各種助成金・補助金への対応等
    - ③ 各関連団体との連絡調整

#### 令和6年度 総務部

部長	熊谷 正広(利府町立利府中学校)
副部長	平塚真一郎(石巻市立青葉中学校)
部員	加藤 敏充(柴田町立船迫中学校)
	古山 明宏(栗原市立築館中学校)
	村上 敬子(南三陸町立志津川中学校)

# 研 究 部

部 長 阿 部 一 彦  
(石巻市立北上中学校)



- 4月 県大会・全国大会について（確認）
- 7月 県大会・全国大会のリハーサル
- 9月 研究の方向と実態調査等について
- 10月 実態調査の分析と役割分担，原稿の校正
- 12月 研究のまとめ
- 2月 次年度計画等

## 1 活動目標

- (1) 県内の中学校教育が直面する諸課題について検討・研究協議し，その解決等の方策を探り，関係機関への提言とする。
- (2) 県内各地区中学校長会の教育研究推進を図り，併せて宮城県中学校長会，東北地区中学校長会，全日本中学校長会の課題研究に対応する。

## 2 活動内容

全日中及び東北地区，宮城県中学校長会の研究協議題を踏まえ，県内各地区の実情に応じてそれぞれ研究協議題を設定し，調査研究を推進する。

### ○大河原地区

「地域との連携・協働による『チーム学校』と『働き方改革』の実現」

- 6月 研究の方向性の確認
- 7月 役割分担と調査内容等の確認
- 9月 調査研究の実施
- 12月 調査集約の集計と考察
- 2月 地区研究協議会・調査内容中間報告
- 3月 今年度のまとめ・次年度に向けて

### ○仙台地区

「次世代の学校運営を担う人材の育成」

- 6月 アンケート調査の実施
- 7月 実態調査
- 8月 調査結果の分析・考察等
- 9月 県大会の諸準備
- 10月 県研究大会での発表
- 12月 研究発表・研究集録作成
- 2月 研究集録作成・次年度計画

### ○北部地区

「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」

- 8月 調査内容の決定
- 9月 実態調査の実施・集計
- 11月 調査結果の分析
- 12月 紀要の作成
- 2月 次年度の発表準備・計画

### ○東部地区

「『令和の日本型学校教育』を担う教師の育成」

### ○本吉地区

「『カリキュラム・マネジメント』の推進」

- 5月 研究主題の検討
- 6月 県（本吉）大会の準備
- 8月 県（本吉）大会の準備
- 10月 県（本吉）大会の実施
- 12月 各校での実践内容のまとめ
- 2月 今年度のまとめと来年度の研究の確認

## 3 活動の概要

### (1) 第1回研究部会

- ①部長及び副部長の選出，活動内容等確認

### (2) 第2回研究部会

- ①活動目標・各地区研究部の活動状況の確認
- ②全日中及び東北地区中学校長会研究協議会発表地区より，発表までの取組等を報告
- ③県中学校長会研究協議会本吉大会準備の進捗状況について情報提供

### (3) 第3回研究部会

- ①本吉大会及び全日中（兼東北）研究協議会岩手大会についての情報交換
- ②今後の県中学校長会研究協議会，全日中・東北地区中学校長会研究協議会の研究協議に向けての情報交換
- ③東北大会や全日中大会での発表原稿等の情報を次年度の県大会事務局へ報告・連絡する体制の確立

### 令和6年度 研究部

部 長	阿部 一彦	(石巻市立北上中学校)	
副部長	野家 智昭	(涌谷町立涌谷中学校)	
部 員	川村 陽一	(七ヶ宿町立七ヶ宿中学校)	
	〃	高橋 睦子	(名取市立みどり台中学校)
	〃	三浦 美紀	(大崎市立田尻中学校)
	〃	後藤 正章	(石巻市立湊中学校)
	〃	吉川 泉	(気仙沼市立面瀬中学校)

# 行財政部

部長 小松 昭  
(気仙沼市立松岩中学校)



## 1 活動目標

- (1) 学校運営に関する課題の解明と適正化に努める。
- (2) 人事に関する課題の解明と適正化に努める。
- (3) 財務内容について検討し、経理を適正に執行する。
- (4) 教育課程実施における課題の解明と適正化に努める。
- (5) 東日本大震災の復興に向けた課題の解明と適正化に努める。

## 2 活動内容

- (1) 学校運営に関する調査を行い、提言をまとめる。
- (2) 人事に関する調査を行い、提言等をまとめる。
- (3) 年間予算案の提示をする。
- (4) 収入・支出状況の把握と中間決算報告をする。
- (5) 決算報告をする。
- (6) 財務内容について検討し、次年度計画と予算案を作成する。
- (7) 教育課程実施における調査を行い、提言等をまとめる。
- (8) 東日本大震災の復興に向けた調査を行い、提言等をまとめる。(平成23年度より継続)

## 3 活動の概要

- (1) 地区会長会・理事会(4月18日)
  - ・理事として、行財政部長(小松昭校長:松岩中学校)が出席する。
  - ・令和5年度の会計決算報告、基金についての監査結果で適正に執行されていることを報告する。
  - ・令和6年度の会費等及び集金計画について説明する。また、今年度の活動目標及び活動内容、活動計画を提示する。
- (2) 総合部会[第1回行財政部会](4月18日)
  - ・県行財政部員の顔合わせをし、副部長に菊池晃子校長:増田中学校を選出する。
  - ・部員は行財政部長にメールアドレスを報告することを確認する。
- (3) 地区会長会兼部長会・理事会(5月8日)

- ・行財政部長・副部長は別公務のため欠席する。この旨を総務部長に事前報告する。
- (4) 総会・研修会(5月31日)
    - ・役員、決算並びに予算の承認と「人事等に関する調査」の協力について理事へ依頼する。
  - (5) 第2回行財政部会(5月31日)
    - ・6月3日に「人事等に関する調査」を各部員にメールで送付することと、6月6日までに行財政部員から各校へ調査協力の依頼することを確認する。
  - (6) 第3回行財政部会(6月28日)
    - ・「人事等に関する調査」の回答を回収し、その結果を地区ごと部員が集計する。
  - (7) 第4回行財政部会(7月26日)
    - ・行財政部員は「人事等に関する調査」の地区集計表をメールで行財政部長に送信する。
  - (8) 県全体集計(8月7日)
    - ・行財政部長は地区集計表を基に県全体の集計を行い、印刷・製本する(39頁、表裏印刷、180部製本)。
  - (9) 第5回行財政部会(8月23日)
    - ・行財政部長が、調査結果の冊子(各地区会員数分と各教育事務所2部)を行財政部員に郵送する。
    - ・行財政部員から地区会員に冊子を配付する。
    - ・県教委県教育長等への15部は県中学校長会長が持参、各教育事務所長・班長へは地区会長・行財政部員が持参。
  - (10) 会計中間報告及び中間監査(9月20日)
    - ・ホテル白萩にて、会計中間報告を行い、会計中間監査を受ける。
  - (11) 第6回行財政部会(11月6日)
    - ・行財政部長より、本年度の紀要原稿について行財政部員へメール送信し、共有する。
  - (12) 監査会(3月17日)
    - ・ホテル白萩にて、会計監査を受ける。

### 令和6年度 行財政部

部長 小松 昭(気仙沼市立松岩中学校)  
副部長 菊池 晃子(名取市立増田中学校)  
部員 和田山秀博(大河原町立大河原中学校)  
" 和泉千佳子(石巻市立桃生中学校)  
阿部 剛(栗原市立栗原南中学校)

# 情報部

部長 佐々木 晃  
(大崎市立古川中学校)



## 1 活動目標

- 年間を通じて、会員に対して情報提供を適切に行い、また資料等の適切な収集保存に努める。
- 広報業務やホームページ等、情報発信に係る適切な業務遂行と管理に努める。

## 2 活動内容

- (1) 広報活動を推進し、記録や報告を通して活動の理解と活性化に努める。
  - 宮城県中学校長会「会報」の発行
  - 宮城県中学校長会「紀要」の発行
  - 宮城県中学校長会ホームページの管理・更新
- (2) 全日中機関誌「中学校」の編集部協力委員として、原稿の執筆調整等を行う。
- (3) 宮城県中学校長会の広報活動に関する記録や報告資料の電子化を推進する。

## 3 活動の概要

- (1) 宮城県中学校長会総会における対応
  - 期 日：令和6年5月31日
  - 活動内容
    - ・会場及び開会中の記録写真等の撮影
    - ・各種挨拶文等のデータ収集
- (2) 「会報」150号の発行
  - 発行日：令和6年8月1日
  - 内 容
    - ・第75回宮城県中学校長会総会概略
    - ・会長及び教育長挨拶、新会員代表挨拶
    - ・宣言、決議
    - ・新任校長12人の抱負
    - ・編集後記

※全12ページ

- (3) 「紀要」の発行
  - 発行日：令和7年3月1日
  - 内 容：第1部
    - ・令和6年度の事業について
    - ・活動方針、宣言、決議
    - ・巻頭言（会長挨拶）
    - ・役員名簿、会務分掌
    - ・事業実施状況
    - ・各部の活動報告
    - ・県中体連の動き
    - ・各地区校長会の動き
    - ・各地区の研究報告

- (4) 宮城県中学校長会ホームページの管理・更新

- 更新内容 ※（ ）は更新時期
  - ・会長挨拶（6月、12月の2回）
  - ・宮城県中学校長会年間事業計画（6月）
  - ・宮城県中学校長会活動方針（6月）
  - ・宣言、決議文（6月）
  - ・宮城県中学校長会運営規程（6月）
  - ・会報150号の掲載（8月）
  - ・研究協議会本吉大会資料の掲載（9月）
  - ・紀要の掲載（令和7年3月）

- (5) 情報部会の開催

- ① 第1回部会（ホテル白萩）
  - 開催日：令和6年4月18日
  - 活動内容
    - ・正副部長等の互選
    - ・年間計画の確認
    - ・活動目標・活動内容の検討
    - ・情報交換
- ② 第2回部会（ホテル白萩）
  - 開催日：令和6年5月15日
  - 活動内容
    - ・会報150号発行について（内容検討、役割分担等）
    - ・情報交換
- ③ 第3回部会（ホテル白萩）
  - 開催日：令和6年7月3日
  - 活動内容
    - ・会報150号の最終校正
    - ・今後の活動確認
    - ・「紀要」発行について（内容及び作成日程、業務分担の確認）
    - ・情報交換
- ④ 第4回部会（ホテル白萩）
  - 開催日：令和7年2月6日
  - 活動内容
    - ・紀要最終校正
    - ・次年度計画の立案
    - ・情報交換

令和6年度 情報部

部 長	佐々木 晃	(大崎市立古川中学校)
副部長	白鳥 修	(山元町立山元中学校)
部 員	鈴木 直美	(川崎町立富岡中学校)
	藤山 篤	(気仙沼市立津谷中学校)
	飯川 弘芳	(登米市立豊里小・中学校)

# 指 導 部

部 長 万城目 堅 也  
(蔵王町立円田中学校)



## 1 活動目標

- (1) 豊かな心の教育の充実を中核とした生徒指導の推進を図る。
- (2) 生徒指導上の今日的課題の解明とその対策を探る。
- (3) 特別支援教育の在り方を探る。

## 2 活動内容

- (1) 生徒指導に関する諸問題の調査研究を行う。
- (2) 関係諸機関との行動連携の強化を図る。
- (3) 学校間の連携と情報交換の緊密化を図る。
- (4) 特別支援教育の現状と課題について研究し、適切な教育支援の在り方を探る。
- (5) 教育課題の調査研究を行う。

## 3 活動の概要

- (1) 令和6年4月18日(木)  
第1回指導部会  
・部長・副部長の選出  
・活動目標、計画の検討  
・研究テーマについての協議  
・各地区指導部活動等についての情報交換  
・各地区における教育活動の取組に関する情報交換
- (2) 令和6年8月7日(水)  
第2回指導部会  
・活動計画の確認  
・令和6年度の調査研究内容、調査・分析方法等について協議  
・今後の日程と役割分担の確認  
※以後、参集せず、メールにより調査結果の共有や分析を行うことにした。
- (3) 令和6年8月21日(水)  
・部長から各地区部員を通じ、県内全会員に向けて調査依頼文書をメールで送信  
・「Google Forms」にてアンケート形式で調査を実施
- (4) 令和6年9月30日(月)  
・アンケート調査締切
- (5) 令和6年10月中  
※大河原管内中学校長会指導部会で  
・アンケート調査の集計作業  
・県全体と地区毎の集計結果一覧等作成

- (6) 令和6年11月25日(月)  
・部長から、メールにて集計結果一覧等を各地区指導部員に提示し、共有を図る。  
・部長から各地区毎の傾向や課題等についての分析・考察を依頼
- (7) 令和6年12月26日(木)  
・各地区毎の分析・考察結果提出締切
- (8) 令和7年1月10日(金)  
※大河原管内中学校長会指導部会で  
・各地区毎の分析・考察結果まとめ
- (9) 令和7年1月15日(水)  
・会長、事務局等に結果(案)を提示し、会員への報告について承認を受ける。
- (10) 令和7年1月21日(火)  
・部長から各地区部員を通じ、県内全会員にメールにて調査研究結果を報告  
・メールにて今年度の活動の反省及び次年度に向けた引き継ぎ事項の確認
- (11) 令和7年2月6日(木)  
・県中学校長会地区会長会・部長会、県中学校長会理事会において、指導部長が今年度の調査研究結果の概要を報告

### 令和6年度 指導部

部 長	万城目堅也(蔵王町立円田中学校)
副部長	佐藤 勇寿(美里町立小牛田中学校)
部 員	田中 謙(多賀城市立多賀城中学校)
	〃 後藤 玄(大崎市立古川北中学校)
	〃 宮崎 明雄(気仙沼市立新月中学校)
	〃 佐々木 裕(石巻市立山下中学校)
	〃 佐々木貴子(登米市立東和中学校)

# 令和6年度 宮城県中学校体育連盟の動き

宮城県中学校体育連盟 会長 洞 口 乃



県校長会の皆様におかれましては、本連盟の活動に対しまして、日頃より御理解、御協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、今年度の第73回宮城県中学校総合体育大会では、中体連の地区割再編後初めての大会運営となりました。加えて昨年に引き続き、全国的な猛暑日が続く熱中症対策の対応をしながら、宮城県教育委員会の御理解と御協力、全競技専門部の丁寧な準備と対策運営、競技団体や保護者の方々の温かい御支援により、大会を無事に終了できました。校長会の皆様には競技期間中、役員として活躍していただいた先生方の派遣につきまして、特段の御配慮をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

また、運動部活動を取り巻く環境は、地球温暖化による熱中症対策、少子化や働き方改革、さらには部活動の地域移行により、昨年度の全国中学校体育大会から地域クラブ活動の大会参加が緩和されましたが、今年度も大きな混乱もなく全国大会への宮城県予選会への参加ができました。今年度も令和7年度の地域クラブ活動の大会参加に向けて県保健体育安全課、県スポーツ振興課、県スポーツ協会、県内競技団体、各郡市中体連、全競技専門部と宮城県予選会の在り方情報交換会を実施し、方向性を決めることができました。そのような中、日本中体連から令和9年度以降全国中学校体育大会を開催しない競技（水泳競技・ハンドボール・体操競技・新体操・ソフトボール男子・相撲・スキー・スケート・アイスホッケー）が示されました。持続可能な全中大会の在り方を検討するプロジェクト委員会へ諮問し、3年以上かけての協議の結果となります。それを受けて今後の持続可能な宮城県中体連運営を考慮していかなければなりません。今後も県中体連は関係機関と連携し、諸課題の解決と生徒の夢と希望、これからの社会をより良く生きる力を育むために、各事業に取り組んでまいりたいと思います。

## ○今年度の主な取組

- ①「第1回評議員会（4/24）」：会長 洞口乃（仙台・鶴が丘）、副会長 角鹿哲弥（仙台・中野）、石川裕之（大河原・白石東）、寺西裕智（仙台南・吉田）、我妻敬一（仙台北・塩竈二）、木村啓（北部・鹿島台）、平塚輝（東部・矢本一）、村上卓（栗原・若柳）、富士原昭裕（登米・登米中田）、櫻井美佐子（気仙沼・階上）を選出。
- ②宮城県中総体（7/21～24）、駅伝（10/2）、フィギュアスケート（9/28）、スピードスケート（12/13会場：福島県郡山市）、スキー（R7.1/10～12）
- ③東北大会宮城県実施種目：新体操（8/1～2）、体操（8/3～4）、バドミントン（8/6～8）相撲（8/7～8）、陸上（8/8～10）、フィギュアスケート（11/9）、スキー（R7.1/24～26）
- ④「第2回評議員会（11/1）」：次年度大会要項等を審議、宮城県中総体屋外競技の日程分散開催について、令和7年度以降県駅伝競走大会、令和7年度における地域クラブ活動の取扱いについて承認。
- ⑤「全国中学校体育大会への参加資格緩和に係る宮城県予選会の在り方情報交換会」：10/29実施。
- ⑥部活動協議会（11/29）を開催、令和9年度以降全国中学校体育大会を開催しない競技の県中総体の在り方や運営方法など、グループ協議を行い全体で共有。

中学校の部活動は、昨年度から地域移行への過渡的な時期に入りました。今後もよりよい中体連運営となるよう校長先生方の御協力をお願いいたします。

## 第73回 宮城県中学校総合体育大会成績一覧（団体）

種 目		第 一 位	第 二 位	第 三 位		
陸 上 競 技	男	仙 台 一	郡 山	宮 教 大 附 属	* * *	
	女	古 川 黎 明	長 町	郡 山	* * *	
水	泳	令和6年度より団体表彰は行わない				
バスケットボール	男	東 北 学 院	上 杉 山	南 小 泉	長 町	
	女	五 橋	名 取 二	高 崎	向 陽 台	
サ ッ カ ー		船 岡	増 田	南 中 山	富 谷 二	
ハ ン ド ボ ー ル	男	成 田	仙 台 中 田	古 川	五 橋	
	女	仙 台 中 田	古 川	成 田	六 郷	
野 球		郡 山	河 南 西	若 柳	東 向 陽 台	
体 操	体操競技	男	中 新 田	長 町	* * *	
		女	長 町	吉 成	* * *	
	新体操	男	白 石 東	白 石	* * *	* * *
		女	七 北 田	錦 ケ 丘	広 瀬	* * *
バレーボール	男	古 川	大 衡	蒲 町	富 沢	
	女	古 川 学 園	広 瀬	古 川	東 仙 台	
ソ フ ト テ ニ ス	男	東 北 学 院	鶴 谷	八 乙 女	4位 岩 沼 西	
	女	白 百 合	大 河 原	北 仙 台	4位 河 北	
卓 球	男	登 米 中 田	古 川	岩 出 山	河 北	
	女	三 本 木	宮 床	大 郷	津 谷	
バ ド ミ ン ト ン	男	聖ウルスラ学院英智	登 米 中 田	NEO BLOOM	中 野	
	女	聖ウルスラ学院英智	岩 切	NEO BLOOM	み どり 台	
ソ フ ト ボ ー ル	男	* * *	* * *	* * *	* * *	
	女	佐 沼・米 山	石 巻	富 沢	名 取 二	
柔 道	男	大崎柔道クラブ	河 南 東	米 山	佐 沼	
	女	万 石 浦	女 川	多 賀 城	気仙沼柔道スポーツ	
剣 道	男	広 瀬	聖ドミニコ	古 川 東	蛇 田	
	女	聖ドミニコ	七 郷	六 郷	岩 沼 西	
弓 道	男	東 北 学 院 A	東 北 学 院 B	高 崎	* * *	
	女	高 崎 B	古 川 黎 明 A	錦 ケ 丘 A	* * *	
相 撲		栗 駒	* * *	* * *	* * *	
ホ ッ ケ ー	男	栗 原 西	築 館	* * *	* * *	
	女	* * *	* * *	* * *	* * *	
駅 伝	男	東 向 陽 台	矢 本 二	八 乙 女	4位 五 橋	
	女	八 木 山	上 杉 山	東 向 陽 台	4位 錦 ケ 丘	

## 各地区校長会の動き

### 大河原地区校長会

会長 小原 彰



#### I 活動方針

私たち中学校長は、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育むとともに、Society5.0時代に求められる学校づくりに向けて、リーダーシップを発揮し、「学校における働き方改革」の実現を含め、学校からの教育改革を推進しなければならない。

管内中学校長会は、学校からの教育改革を推進の柱として、次の活動方針に基づき、管内中学校教育の充実と発展を期する。

##### 1 管内中学校長会の機能を充実し、活動の活性化に努める。

- (1) 各市町・各部、小学校、特別支援学校、高等学校の校長会との連携した活動の推進
- (2) 教育研究及び広報活動並びに諸事業の充実
- (3) 関係機関との連携の促進及び教育課題の解決と提言
- (4) 教育改革に関する迅速な対応と情報の発信
- (5) 校長としての資質・能力の向上を図る研修の充実

##### 2 創意ある教育課程を編成し、確かな学力の向上と個性を生かす教育の推進に努める。

- (1) 学習指導要領の趣旨の実現を図る教育課程の編成、実施、評価、改善
- (2) 基礎・基本の確実な習得と、それらを活用する能力及び学びに向かう力を育てる指導・評価の工夫改善
- (3) 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を育むための「カリキュラム・マネジメント」の確立

##### 3 当面する教育課題の解決に努める。

- (1) 多発する自然災害に対応するための、地域に根ざした防災・安全教育の推進実践
- (2) 心の教育を中心に据えた生徒指導の充実と、いじめを生まない学校体制の確立
- (3) 多様な学びの確保など不登校支援の充実
- (4) 志教育の視点に立った教育活動の展開

- (5) 特別支援教育への適切な対応
- #### 4 家庭や地域社会に信頼される学校づくりに努める。

- (1) 地域の一員として信頼される教職員の育成
- (2) 学校改善につながる学校評価システムの工夫
- (3) 諸機関との連携を密にした危機管理の徹底
- (4) 教職員の適正な評価による資質向上と教育実践に結びついた現職教育の充実

#### 5 教育諸条件の整備・充実と職責に見合う待遇改善の実現に努める。

- (1) 義務教育費国庫負担制度や人材確保法の堅持
- (2) 教育改革推進のための人的配置と学校運営予算の充実
  - ① 教職員の定数改善と学習指導要領の趣旨・内容に即応した人的配置
  - ② 施設・設備の充実と学校裁量予算の増額
- (3) 教職員の諸手当や旅費等の充実及び待遇改善
- (4) 校長・副校長・教頭の給与体系の改善及び退会時における待遇の改善
- (5) 「学校における働き方改革」を踏まえた部活動の在り方の検討

#### II 組織と運営

##### 1 組織

本会は下記3地区、2市7町21中学校の校長で組織される。

- (1) 白石・刈田地区（白石市・蔵王町・七ヶ宿町） 9校
- (2) 柴田地区（大河原町・村田町・柴田町・川崎町） 9校
- (3) 角田・伊具地区（角田市・丸森町） 3校

##### 2 役員

会則により、会長1名、副会長1名は、各市町代表をもって互選する。理事には、会長・副会長以外の市町代表があたる。各部長には理事があたるが、他の会員に適任者がいればその者があたる。監事は白石刈田・角田伊具地区と柴田地区からそれぞれ各1名選出する。

- 会長 小原 彰（村田一中 村田町）
- 副会長 渥美 寿彦（白石中 白石市・大特研）
- 理事 加藤 敏充（船迫中 総務部）  
万城目 堅也（円田中 蔵王町・指導部）  
石川 裕之（東中 中体連）  
高橋 豊（川崎中 川崎町・会計）

川村 陽一 (七ヶ宿中 七ヶ宿町・研究部)  
和田山秀博 (大河原中 大河原町・行財政部)  
鈴木 直美 (富岡中 広報部)  
伊藤 由啓 (槻木中 柴田町)  
阿部 篤史 (角田中 角田市・中教研)  
軽部 敦子 (丸森中 丸森町)

○監事 鈴木 直美 (富岡中)  
堀内 宣久 (遠刈田中)

### 3 各部・委員会等

#### (1) 総務部

部長 加藤 敏充 (船迫中)  
副部長 山下 正人 (宮中)  
会計 高橋 豊 (川崎中)  
部員 阿部 篤史 (角田中)

#### (2) 研究部

部長 川村 陽一 (七ヶ宿中)  
副部長 佐藤 広昭 (船岡中)  
部員 嶋原 薫 (小原中)  
我妻 聡美 (白石南中)  
軽部 敦子 (丸森中)  
伊藤 由啓 (槻木中)

#### (3) 行財政部

部長 和田山秀博 (大河原中)  
副部長 八島 信 (福岡中)

#### (4) 広報部

部長 鈴木 直美 (富岡中)  
副部長 石川 裕之 (東中)  
部員 堀内 宣久 (遠刈田中)  
庄司 浩昌 (村田二中)

#### (5) 指導部

部長 万城目堅也 (円田中)  
副部長 山家 一博 (北角田中)  
部員 山田 賢一 (金ヶ瀬中)

#### (6) 宮城県特別支援学級・通級指導教室設置学 校長協議会

評議員 渥美 寿彦 (白石中) 大特研会長  
監事 軽部 敦子 (丸森中)

## Ⅲ 活動の概要

1 各市町代表者会議〔4月1日(月)村田一中〕

2 総会〔4月10日(水)合庁〕

#### ◎総会Ⅰ

- ① 新会員の紹介
- ② 協議Ⅰ 役員選出, 関係諸団体所属確認

#### ◎総会Ⅱ

- ① 令和5年度事業・決算・監査報告

② 令和6年度事業及び予算案の審議と承認

### 3 理事会

① 第1回 5月13日(月) 村田一中

○各部の運営計画について

○第1回研究協議会の計画について

○全国中学校長会研究協議会岩手大会及び東  
北中学校長会岩手大会について

② 第2回 8月30日(金) 船迫中

○各部の運営計画について

○第2回研究協議会の計画について

○管内小・中学校長会連絡協議会について

③ 第3回 12月3日(火) 船迫中

○第2回研究協議会の反省

○第3回研究協議会の計画について

○令和7年度の準備について

④ 第4回 2月18日(火) 船迫中

○理事会の前に監査会を実施する。

○6年度事業の反省と会計決算について

○7年度活動方針, 事業計画等について

○7年度役員選出について

○7年度総会Ⅰ・Ⅱについて

### 4 研究協議会

(1) 第1回 6月12日(木) 角田市市民センター

① 報告・連絡・協議

② 研修講話

星 信浩 様 (大河原教育事務所)

(2) 第2回 9月11日(水) 槻木生涯学習センター

① 報告・連絡・協議

② 研修講話

八島 信 (福岡中)

阿部 篤史 (角田中)

堀内 宣久 (遠刈田中)

山田 賢一 (金ヶ瀬中)

庄司 浩昌 (村田二中)

(3) 第3回 2月7日(金) 蔵王町役場

① 報告・連絡・協議

② 研修講話

佐藤 広昭 (船岡中)

高橋 豊 (川崎中)

鈴木 直美 (富岡中)

軽部 敦子 (丸森中)

### 5 その他の活動

(1) 管内中学校長・仙南地区高等学校長連絡協  
議会の開催 7月2日(火) 大河原産業高校

# 仙台地区校長会

会 長 高 野 薫



## I 活動方針

会員相互の連絡調整及び学校教育全般にわたる研究協議を行い、もって管内学校教育の振興に寄与するものとする。

## II 組織と運営

### 1 運営と主なねらい

- (1) 学校運営についての研修・研究協議を行う。
- (2) 教育上必要な事項についての研究・調査及び協議を行う。
- (3) 教育団体との連絡調整を行う。
- (4) 管内教職員をもって構成する教育関係諸団体に対する指導・助言を行う。
- (5) その他管内学校教育の振興に必要な事業を行う。

### 2 組織

#### (1) 組織の概要

本会は、仙台市を南北に挟んだ5市7町1村の13市町村38校の会員38名で構成されている。

会長・副会長2名、6地区から8名の地区理事と専門部理事2名、総務4名、会計、中体連2名、中教研の計21名で理事会を開き、会の運営を審議している。この外に各市町村に評議員を置き、連絡調整にあたるとともに、監事3名を置いている。

専門部には研究部と指導部があり、全会員の協力の下に、両専門部の役員・委員が中心となり研究推進に当たっている。両専門部とも毎年年末に開催される管内研究協議会で研究実践の成果を発表し、協議を行い、研究を深めている。

#### (2) 地区と会員数

- ①亘理地区（亘理町・山元町） 5校

- ②岩沼地区（岩沼市） 4校  
③名取地区（名取市） 5校  
④塩竈地区（塩竈市） 5校  
⑤多賀城地区 10校  
（多賀城市・利府町・松島町・七ヶ浜町）  
⑥富谷黒川地区 9校  
（富谷市・大和町・大郷町・大衡村）

### (3) 役員

- |       |           |          |
|-------|-----------|----------|
| 会 長   | 高 野 薫     | (塩竈一中)   |
| 副 会 長 | 菊 池 信 行   | (大郷中)    |
|       | 池 田 尚 人   | (岩沼中)    |
| 顧 問   | 橋 元 伸 二   | (亘理中)    |
| 地区理事  | 我 妻 敬 一   | (塩竈二中)   |
|       | 木 村 真 也   | (多賀城二中)  |
|       | 小 野 美 和   | (利府西中)   |
|       | 堀 内 恵 理 子 | (荒浜中)    |
|       | 渡 邊 真 由 美 | (岩沼西中)   |
|       | 本 田 正 晴   | (名取二中)   |
|       | 武 藤 裕 子   | (富谷中)    |
|       | 古 積 裕 之   | (大和中)    |
| 研 究   | 高 橋 睦 子   | (みどり台中)  |
| 指 導   | 田 中 謙     | (多賀城中)   |
| 総 務   | 熊 谷 正 広   | (利府中)    |
|       | 堀 内 恵 理 子 | (荒浜中)    |
|       | 本 田 正 晴   | (名取二中)   |
|       | 渡 邊 真 由 美 | (岩沼西中)   |
| 会 計   | 小 野 美 和   | (利府西中)   |
| 中 体 連 | 我 妻 敬 一   | (塩竈二中)   |
|       | 寺 西 裕 智   | (吉田中)    |
| 中 教 研 | 熊 谷 み ち   | (名取一中)   |
| 評 議 員 | 尾 形 知 明   | (塩竈三中)   |
|       | 紙 谷 ゆ た か | (閑上小中)   |
|       | 寺 西 裕 智   | (吉田中)    |
|       | 白 鳥 修     | (山元中)    |
|       | 佐 藤 秋 生   | (玉浦中)    |
|       | 小 山 順 子   | (松島中)    |
|       | 酒 井 智 紀   | (高崎中)    |
|       | 高 橋 松 雄   | (向洋中)    |
|       | 阿 部 昭 博   | (しらかし台中) |
|       | 古 積 裕 之   | (大和中)    |

菊池 信行(大郷中)  
 渡部 恭(日吉台中)  
 伊藤 重和(大衡中)  
 監事 岩渕 克洋(浦戸中)  
 佐藤 秋生(玉浦中)  
 阿部 欽一(東豊中)

### 3 専門部

#### (1) 研究部

研究テーマ

「次世代の学校運営を担う人材の育成～学校経営の実践例からの学びを通して～」

部長 高橋 睦子(みどり台中)  
 副部長 白鳥 修(山元中)  
 齋藤 守彦(玉川中)  
 部員 佐藤 秋生(玉浦中)  
 小山 順子(松島中)  
 三浦 敏(七ヶ浜中)  
 大泉 真澄(宮床中)  
 星 淳(富谷二中)

#### (2) 指導部

研究テーマ

「生徒を取り巻く社会環境に係る諸課題への校長の取組～不登校生徒への学びの保障について～」

部長 田中 謙(多賀城中)  
 副部長 加茂 博行(岩沼北中)  
 高橋 知美(東向陽台中)  
 部員 我妻 敬一(塩竈二中)  
 熊谷 みち(名取一中)  
 小林 美佐子(逢隈中)  
 大川口 裕義(成田中)  
 高橋 松雄(向洋中)

3 5月24日(金) (富谷武道館)

○第1回理事会

○第1回小・中合同理事会

4 7月8日(月) (仙台合庁)

○第1回小・中合同研修会

講師：宮城県教育庁教職員課

小中学校人事専門監 高橋 紳一郎 様

演題：「学校経営における今日的課題とその解決に向けた方策」

5 9月25日(水) (仙台合庁)

○第2回理事会

○第2回小・中合同研修会

講師：宮城県総合教育センター

副所長 田中 政弘 様

演題：「研修観の転換に向けた校長の役割」

6 12月6日(金) (ホテル白萩)

○中学校長会研究協議会

(研究部・指導部による発表・グループワーク)

○全体懇談会

7 12月17日(火) (仙台合庁)

○第3回理事会

8 2月6日(木) (ホテル白萩)

○小・中合同役員会

9 2月21日(金) (仙台合庁)

○会計監査会

○中学校長会全体会

○小・中合同「感謝・祝賀の集い」

10 2月21日(金) (ホテル白萩)

○全体懇談会

### IV 大会参加・発表

○全日本中学校長会・東北地区中学校長会  
 研究協議会岩手大会 36名参加

### V 今後

学力向上やいじめ、不登校、部活動の地域移行等々の諸課題に対し、各地区や各校の創意工夫あふれる取組を校長同士が共有・自校化して、共に高め合っていく校長会となるよう一層の組織の充実・発展を図りたい。

### III 活動の概要

1 4月5日(金) (富谷武道館)

○地区代表者会

・令和6年度事業計画 等

○小・中合同代表者会

2 4月15日(月) (仙台合庁)

○中学校長会総会

# 北部地区校長会

会長 名取 秀樹



## I 活動方針

コロナ禍は社会の混乱を招き、学校からは生徒の自由闊達な生活を奪った。我々教員は、我慢と観念を強いられる彼らに寄り添う距離感さえも否定された。惨禍が明けた後、学校現場には新たな、そして未知の教育課題が生じることは間違いない。だからこそ校長には、生徒の「社会を生き抜く力」、「より良い社会を形成する力」を育む教育を推進する学校経営が、一層求められることになる。

北部地区中学校長会（2市4町25校）は、以下の活動方針に基づき、組織として相互の連携を深め、多岐に渡る教育課題に適切に対応し、中学校教育の一層の充実、発展を図っていく。

## II 組織と運営

### 1 役員及び専門部

#### (1) 役員

会長	名取 秀樹(古川南中)
副会長(会長代行)	古山 明宏(築館中)
副会長	一條 一也(不動堂中)
〃	小野寺英一(中新田中)
〃	佐藤 仁(古川東中)
監事	目々澤辰悟(鳴峰中)
〃	長田 智紀(南郷中)
事務局長	猪股 徳幸(古川西小中)

#### (2) 総務部

部長	古山 明宏(築館中)
部員	名取 秀樹(古川南中)
〃	佐藤 仁(古川東中)
〃	菅原 健志(金成小中)
〃	小野寺英一(中新田中)
〃	一條 一也(不動堂中)

#### (3) 研究部

部長	野家 智昭(涌谷中)
部員	岡 明子(松山中)

〃	高橋 理香(岩出山中)
〃	三浦 美紀(田尻中)
〃	山口れい子(栗原西中)
〃	加藤 純一(栗駒中)
〃	岩淵 謙(色麻学園)

#### (4) 行財政部

部長	阿部 剛(栗原南中)
部員	木村 啓(鹿島台中)
〃	新田 努(三本木中)
〃	長田 智紀(南郷中)

#### (5) 情報部

部長	佐々木 晃(古川中)
部員	築田 智志(鳴子中)
〃	鈴木 司(志波姫中)
〃	目々澤辰悟(鳴峰中)

#### (6) 指導部

部長	佐藤 勇寿(小牛田中)
部員	後藤 玄(古川北中)
〃	猪股 徳幸(古川西小中)
〃	村上 卓(若柳中)

### 2 運営・活動の重点

#### (1) 組織機能の充実と活動の活性化

- ① 県中学校長会・仙台市中学校長会及び北部管内小学校長会・中学校長会連絡協議会並びに高等学校長会と連携した教育活動の推進
- ② 教育研究及び広報活動並びに諸事業の充実
- ③ 関係機関との連携の促進
- ④ 教育改革に関する迅速な対応と情報の推進

#### (2) 創意ある教育課程を編成及び確かな学力の向上と個を生かす教育の推進

- ① 学習指導要領の趣旨の実現を図る教育課程の編成と充実
- ② 基礎・基本の定着と学習意欲の向上を図る指導と評価の改善
- ③ 「豊かな心」と「健やかな体」を育む指導の充実

#### (3) 当面する教育課題の解決

- ① 東日本大震災の教訓を生かし、実践につなげる防災・安全教育の推進

- ② 全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」の推進
  - ③ 心の教育を中心に据えた生徒指導の推進
  - ④ 確固たる規範意識の醸成やいじめを見逃さない学校体制の確立
  - ⑤ 志教育の視点に立った教育活動の展開
  - ⑥ 高等学校入学者選抜の改善への対応
  - ⑦ 特別支援教育の適切な対応
- (4) 家庭や地域社会に信頼される学校づくり
- ① 地域の一員として信頼される教職員の育成
  - ② 学校改善につなげる学校評価システムの工夫（自己評価と学校関係者評価の活用）
  - ③ 諸機関との連携を密にした危機管理の徹底
  - ④ 教職員の適正な評価による資質向上と教育実践に結び付ける現職教育の充実
- (5) 教育書条件の整備・充実
- ① 部活動の諸条件の整備及び将来を見通した在り方の検討
  - ② 適切な人事評価の施行

### Ⅲ 今年度の活動概要

- 1 第1回郡市代表者会（小・中合同）（4月3日）
  - 2 管内中学校長会総会（4月10日）
    - (1) 令和6年度 会則・活動方針の審議
    - (2) " 事業計画・会計予算の審議
    - (3) " 会費徴収計画の審議
    - (4) " 役員・専門部員選出
  - 3 第1回管内中学校長会理事会（5月9日）
  - 4 第1回管内中学校長会研究協議会（6月14日）
    - (1) 研修Ⅰ（小・中連絡協議会合同）講演  
 演題：「学校における不登校児童生徒支援の現状と課題」  
 講師：宮城県教育庁義務教育課  
 指導班副参事（班長）村上 憲一様
    - (2) 研修Ⅱ（中学校研究協議会）話題提供  
 発表者：岡 明子（松山中）  
 加藤 純一（栗駒中）  
 長田 智紀（南郷中）
- ※今年度の新入会員の中から3名の方に、学校経営に関する話題を提供していただいた。

- 5 第2回管内中学校長会理事会（紙面開催）
- 6 第3回管内中学校長会理事会（11月28日）
- 7 第2回管内中学校長会研究協議会（1月10日）  
 研修（小・中連絡協議会合同）講演  
 演題：「雁のいる風景の中で ～雁に学び豊かに生きる～」  
 講師：ラムサール・ネットワーク日本理事  
 日本雁を保護する会会長  
 呉地 正行 様
- 8 第4回管内中学校長会理事会（2月7日）
- 9 第2回郡市代表者会（小・中合同）（3月12日）
- 10 第5回管内中学校長会理事会（3月21日）

### Ⅳ 各種研究大会への参加

- 宮城県中学校長会総会・研修会（5月31日）
- 第42回宮城県中学校長会研究協議会本吉大会（全員参加）（10月9日）
- 第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会（22名参加）（10月17・18日）
- 第74回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会（22名参加）（10月17・18日）

### Ⅴ 終わりに

新型コロナウイルス感染症が、一昨年5月に5類感染症へ移行して以来、多くの行事が学校に戻ってきた。しかし、日常の教室では生徒のマスクの着用率は未だ高いままである。表情を見せることへの不安感か、逆に見せないことへの安堵感か。生徒にとっては、コロナ禍前の生活に戻っているとは決して言えない。教育現場はさらに幾多の課題に直面している。「部活動の地域移行」「ICTがもたらす新たな生徒指導」「教職員の働き方改革」など、これまで尽力してきた「不登校生徒への支援」や「学力向上」等への取組さえも暗中模索から抜け出せないまま、次々に表出している。コロナ禍明けは、次なる厄災の幕開けとしたら言い過ぎか。孤独と言われる校長職だからこそ、本校長会における会員相互の交流や意見交換の場は、胸の内を吐露し前向きになれる貴重な場であった。管内校長会はもとより県校長会全会員の皆様に、心から感謝申し上げるところである。

# 本吉地区校長会

会長 尾形浩明



## I 活動方針

本吉地区中学校長会（気仙沼市と南三陸町の11校）は、これまでの復興への歩みとコロナ禍における対応等の経験をもとに、次代を担う人間性豊かで創造性に富む日本人の育成に向け、「社会を生き抜く力」と「よりよい社会を形成する力」を育む教育に一層尽力する。そして、令和の日本型学校教育を推進しながら、新しい時代に求められる学校づくりに向けて、強くしなやかなリーダーシップを発揮する。

## II 運営の方針

- 1 地区内11校及び気仙沼市と南三陸町の教育の情報交換と連携を一層密にすること
- 2 震災からの教育の復興を受け、生徒や地域の実態をふまえ、カリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に推進していくこと
- 3 学校課題に応じた積極的な学校経営を進めること
- 4 管内の学校再編計画とそれに関連する諸活動について情報共有を図ること

## III 活動の重点

- 1 組織機能の充実と他団体との連携・協力
  - (1) 学校教育課題に関する情報交換と相互研修を定期的実施する。
  - (2) 全日本中学校長会及び県中学校長会と一体化した活動を行う。
  - (3) 当地区小学校長会及び高等学校長会等との連携を強化する。
  - (4) 中体連及び市町との連携のもとに、学校部活動の地域移行に関する情報共有を行い、学校部活動の在り方について検討を行う。

## IV 組織と運営

本会は気仙沼市と南三陸町の11校で組織している。

## 1 役員

会長	尾形浩明	(気仙沼中)
副会長	宮崎明雄	(新月中)
副会長	村上敬子	(志津川中)
幹事	小松昭	(松岩中)
幹事	吉川泉	(面瀬中)
幹事	藤山篤	(津谷中)
幹事	熊谷岳哉	(歌津中)
幹事	櫻井美佐子	(階上中)
幹事	菅原英二	(唐桑中)
幹事	三浦利恵	(鹿折中)
幹事	熊谷昌祐	(大谷中)

## 2 専門部

総務部	◎村上敬子	(志津川中)
	熊谷岳哉	(歌津中)
研究部	◎吉川泉	(面瀬中)
	三浦利恵	(鹿折中)
	櫻井美佐子	(階上中)
	菅原英二	(唐桑中)
	熊谷昌祐	(大谷中)
	熊谷岳哉	(歌津中)
	尾形浩明	(気仙沼中)
行財政部	◎小松昭	(松岩中)
情報部	◎藤山篤	(津谷中)
指導部	◎宮崎明雄	(新月中)

## 3 諸会議

- (1) 地区総会
- (2) 地区全体研修会
- (3) 小・中学校長会合同総会・役員会
- (4) 小・中学校長会合同研修会
- (5) 中・高・特別支援学校連絡協議会

## V 活動の概要

### 1 事業報告

総会・研修会	4月12日	(金)
小・中合同総会	4月12日	(金)
第1回全体研修会	5月20日	(月)
臨時全体研修会	6月24日	(月)
臨時全体研修会	7月26日	(金)
臨時全体研修会	8月23日	(金)
第2回全体研修会	9月11日	(水)
第3回全体研修会	10月8日	(火)
第4回全体研修会	2月13日	(金)

第5回全体研修会 2月21日(金)

## 2 全体研修会

### (1) 主な内容

- ① 県地区会長会、理事会、各部会からの報告
- ② アフターコロナの学校経営について
- ③ 学校運営上の諸課題についての意見交換

### (2) 第1回全体研修会 5月20日(月)

- ① 県中学校長会総会実施内容と組織・役割分担等の確認
- ② 地区中総体の合同チームについて
- ③ 学校経営上の諸課題についての意見交換

### (3) 臨時全体研修会 6月24日(月)

- ① 県中学校長会総会の振り返り
- ② 県地区会長会・理事会からの報告
- ③ 令和6年度県中学校長会研究協議会本吉地区大会についての役割・分担

### (4) 臨時全体研修会 7月26日(金)

- ① 令和6年度県中学校長会研究協議会本吉地区大会の進捗状況について情報共有と確認
- ② 学校経営上の諸課題についての意見交換

### (5) 臨時全体研修会 8月23日(金)

- ① 県地区会長会・理事会からの報告
- ② 令和6年度県中学校長会研究協議会本吉地区大会の進捗状況について共有と確認
- ③ 令和8年度の修学旅行について

### (6) 第2回全体研修会 9月11日(水)

- ① 令和6年度県中学校長会研究協議会本吉地区大会の進捗状況について共有と確認
- ② 学校経営上の諸課題についての意見交換

### (7) 臨時全体研修会 10月8日(火)

- ① 県地区会長会・理事会からの報告
- ② 令和6年度県中学校長会研究協議会本吉地区大会の準備
- ③ 大会参加に伴う生徒の出席の取扱いについて

④ 古岡奨学会の件について

### (8) 第3回全体研修会 12月13日(金)

- ① 県研究協議会本吉大会の反省
- ② 令和7年度地区駅伝大会について
- ③ 再編統合計画による本教研の在り方について

### (9) 第4回全体研修会 2月21日(金)

- ① 研究発表
- ② 次年度計画の確認

## 3 小・中学校長会合同役員会

(1) 第1回合同役員会 4月12日(金)

(2) 第2回合同役員会 12月13日(金)

(3) 第3回合同役員会 2月21日(金)

(4) 第4回合同役員会 3月21日(金)

## 4 小・中学校長会合同研修会 2月13日(木)

(1) 研究発表及び研究協議

・小学校長会研修部(教育課程委員会)より

・中学校研究部より

発表者: 吉川 泉(面瀬中学校)

「カリキュラム・マネジメントの推進」  
～生徒の学びの質向上に向けた取組～

## 5 中・高・特支学校連絡協議会

(1) 第1回研修会 7月12日(金)

(2) 第2回研修会 11月8日(金)

## 6 各種研修会・研究大会での発表等

(1) 地区会長会・部長会、理事会・研修会

(2月6日)

・発表者 村上敬子(志津川中)

「学び支援教室の取組と生徒指導」

## VI おわりに

今年度の県中学校長会研究協議会本吉大会の開催にあたり、多くの参加者と東部地区(登米市)からの応援で無事その大役を果たすことができました。感謝申し上げます。

学校教育がコロナ以前に戻りつつある中で、コミュニティ・スクールによる、地域のネットワークづくり、各学校での教育課程の見直しなど、今後も校長会として組織力とのマネジメント力を発揮し、諸課題に対応していきたいと思えます。

# 東部地区校長会

会長 山内 芳明



## I 活動方針

日本社会を揺るがしたコロナ禍は、教育現場でこれまで踏襲として行ってきた様々な教育活動を否応なしに見直す機会を我々に与えた。それまで行ってきた一つ一つの教育活動が本当に必要なものなのかの議論が始まり、学校現場では新たな形態を模索しながら様々な試行が続いている。解決すべき学校課題も山積し、学力の向上、いじめ・不登校の未然防止と対応、学校における働き方改革、新たに沸き起こった部活動の地域移行など、枚挙に暇がない。そのような状況の中で、我々校長は今、マネジメント力を強く問われている。当地区中学校長会は、会議や研修会を充実させ、それぞれが抱える課題の解決のため、情報交換を密にして、地区内中学校教育の一層の充実・発展を図ることを目指したい。

## II 活動の重点

- 1 東部地区中学校長会の組織と活動の充実
- 2 教育課程の適正な管理
- 3 生徒指導の充実と不登校対策の強化
- 4 志教育の推進と進路指導の充実
- 5 へき地教育及び特別支援教育の振興
- 6 教職員の定数・待遇改善に向けての努力
- 7 小学校・高等学校との連携
- 8 家庭・地域・関係諸機関との連携
- 9 中体連の適切な運用と環境の整備
- 10 部活動の地域移行等についての情報共有
- 11 教職員の望ましい働き方改革の推進
- 12 コミュニティ・スクールの導入による「地域に開かれた学校」の推進

## III 組織と運営

本会は、石巻市、登米市、東松島市、女川町の3市1町の31校の中学校で組織されており、役員については会則により以下のとおりである。

会長	山内 芳明 (石巻中)
副会長	菅原 栄夫 (南方中)
副会長	黒沼 俊郎 (矢本二中)
幹事 (石巻市)	千葉 正人 (蛇田中)
幹事 (登米市)	二階堂順一郎 (佐沼中)
幹事 (東松島市)	宍戸 雅治 (鳴瀬未来中)
幹事 (女川町)	熊谷 雅幸 (女川小・中)
総務部長	平塚真一郎 (青葉中)
研究部長	後藤 正章 (湊中)
行財政部長	和泉千佳子 (桃生中)
情報部長	飯川 弘芳 (豊里小・中)
指導部長	佐々木 裕 (山下中)
会計	山田 敦子 (住吉中)
会計	佐藤 智哉 (米山中)
中体連 (石巻地区)	平塚 輝 (矢本一中)
中体連 (登米市)	富士原昭裕 (中田中)
監事	小野寺春樹 (新田中)
監事	千葉 純子 (登米中)

## IV 活動の概要

- 1 総会 4月12日 (金) 会場：石巻合庁
  - (1) 協議及び報告
    - ・会則の承認、事業計画、予算の承認
  - (2) 役員承認と専門部員の確認
- 2 定例会 会場：石巻合庁
  - (1) 第1回 4月12日 (金)
    - ・専門部顔合わせと打合せ
    - ・情報交換 (地区ごと)
  - (2) 第2回 9月13日 (金)
    - ・県中学校長会からの報告
    - ・各専門部及び中体連からの連絡等
    - ・情報交換
  - (3) 第3回 2月13日 (木)
    - ・県校長会からの報告
    - ・各専門部及び中体連からの連絡等
    - ・情報交換
- 3 役員会
  - (1) 第1回 4月5日 (金) まきあーと
    - ・役員、会則の確認と承認
    - ・事業計画、総会の内容について
  - (2) 第2回 6月7日 (金) 桃生公民館
    - ・県中学校長会からの報告
    - ・各専門部及び中体連からの連絡等

- ・情報交換
- (3) 第3回 8月1日(金) ビッグバン
  - ・小中合同研修会及び第2回定例会検討
  - ・研修「命を大切にする道德教育の推進」
- (4) 第4回 12月2日(月) 桃生公民館
  - ・第3回定例会計画, 情報交換会
  - ・令和7年度の事業計画
- (5) 第5回 2月13日(木) 石巻合庁
  - ・令和6年度事業の反省・会計報告
  - ・令和7年度事業計画
- 4 東部地区小中合同研修会
  - (1) 9月13日(金) 会場 石巻合庁
 

演題: 「家庭・地域との協働により実践的な安全管理の展開」

講師: 宮城教育大学防災教育研修機構  
講師 林田 由那 様

## V 専門部の活動

- 1 総務部 部長 平塚真一郎(青葉中)
 

【活動内容】

  - (1) 総会・定例会の会場準備, 資料作成
  - (2) 各専門部との連絡調整
  - (3) 地区小学校事務局との連絡調整
  - (4) 関係機関との連絡調整
- 2 研究部 部長 後藤正章(湊中)
 

〈研究題〉

『令和の日本型学校教育』を担う教師の育成

【活動内容】

  - (1) 全日中岩手大会・東北大会における研究発表準備及び研究発表
  - (2) 県研究協議会本吉大会における研究準備及び研究発表
  - (3) 人材育成に係るアンケート調査・分析
  - (4) 紀要の作成・配布
- 3 行財政部 部長 和泉千佳子(桃生中)
 

【活動内容】

  - (1) 人事等に関するアンケート調査依頼
  - (2) アンケート調査の回収・分析
  - (3) まとめ冊子の作成・配布
- 4 情報部 部長 飯川弘芳(豊里小・中)
 

【活動内容】

  - (1) 会報に係る原稿依頼及び校正

- (2) 紀要に係る原稿依頼及び校正
- 5 指導部 部長 佐々木 裕(山下中)
 

【活動内容】

  - (1) 生徒指導に関する諸問題の調査研究
  - (2) 関係諸機関との行動連携の強化
  - (3) 学校間の連携と情報交換
  - (4) 教育課題の調査研究

「部活動の地域移行」に係る調査を実施

## VI 大会参加・発表等

- 1 宮城県中学校長会研究協議会本吉大会
 

10月9日(水) 気仙沼市中央公民館

〈発表者〉阿部一彦(北上中)

〈発表題〉「よりよく生きようとする意思や能力を育む道德教育の充実～命を大切にする心を育む道德教育の推進～」
- 2 全日本中学校長会研究協議会岩手大会・東北地区中学校長会研究協議会岩手大会
 

10月16日(水)・17日(木)・18日(金)

トーサイクラシックホール岩手 他

〈発表者〉阿部 一彦(北上中)

〈発表題〉(県研究協議会本吉大会と同文)
- 3 宮城県退職校長会話題提供
 

12月6日(金) ホテル白萩

〈発表者〉山内 芳明(石巻中)

〈発表題〉「教育の現状と課題」

## VII おわりに

子供たちの生きる未来は、予測が困難で変化の激しい時代だと言われており、時代のニーズに合わせて子供たちが身に付けるべき力も変わってきている。それに伴って我々校長も教育界の様々な変革の渦の中で、変化に対応する力が求められている。毎日が決断の連続であり、ともすれば向かうべき方向を見失いがちになるかもしれない。そのようなときだからこそ、東部地区中学校長会の横の連携、情報交換や意見交換が重要であることを再確認し、役員会や定例会はもちろんのこと、日常のネットワークを大切にしながら東部地区の子供たちのより良い成長のために力を尽くしていきたい。

# 各地区の研究報告

令和6年度 研究主題

## 地域との連携・協働による『チーム学校』と『働き方改革』の実現

### 大河原地区

#### I はじめに

近年、学校教育が直面する複合的な課題への対応が喫緊の課題となっている。中でも教員の長時間労働は依然として深刻であり、心身の健康を損なうだけでなく、教育の質の低下も懸念されている。また、複雑化する社会状況を背景に、子供たちの抱える課題も多様化しており、学校だけで対応するには限界がある。

こうした状況を踏まえ、学校と教員以外の専門職や地域社会が連携・協働し、「チーム学校」として一体的に取り組むことで、課題解決を図る必要性が高まっている。専門職や地域人材の活用は、教員の負担軽減に繋がり、子供と向き合う時間の確保を可能にする。さらに、地域社会の教育力を活用することで、子供たちの学習機会の拡充や多様な経験の提供、社会性やコミュニケーション能力の育成が期待できる。

本研究では、「チーム学校」と「働き方改革」を一体的に捉え、管内各校における教員以外の専門職や地域との連携・協働の状況と教員の業務改善への波及効果などの状況を明らかにし、事例を共有することで自校の実践・学校経営に役立て、各校の働き方改革の推進を牽引したいと考え、本主題を設定した。

#### II 研究の概要

##### 1 研究期間

令和6年度から令和8年度までの3年間

##### 2 研究対象

大河原地区中学校21校

##### 3 研究内容

- (1) 各校の「働き方改革の推進」に関する実態調査を行う。
- (2) 調査結果を基に、管内の現状把握と課題を集約するとともに、参考となる取組を深掘り共有し、各校の実践に生かす。
- (3) 各校の実践事例及び成果と課題を集約し、実践事例集を作成する。
- (4) 実践事例発表会を開催し、学校経営に生かす。

##### 4 研究計画

- (1) 1年次（令和6年度）

- ・研究の方向性の確認、研究主題・研究全体構想の決定
  - ・「人材育成・資質向上、働き方改革の推進」に係る実態調査の実施
- (2) 2年次（令和7年度）
    - ・実態調査による管内の現状把握と、そこから見える好事例と課題の集約と共有
    - ・参考となる取組（好事例）を深掘りし、事例発表会を通して各校の実践に生かす
    - ・実践事例集（PDF版）の作成
  - (3) 3年次（令和8年度）
    - ・東北大会（6月）での発表
    - ・県研究協議会北部大会（10月）での発表
    - ・「働き方改革の推進」に係る実態調査の実施（変容等の把握）
    - ・実践事例発表（紙面発表）
    - ・次年度研究の方向性の提案

#### III 研究の実践

##### 1 研究推進に係る諸会議等

- (1) 4月1日管内中学校長会市町代表者会議
  - ・今年度の研究組織等の確認
  - ・前年度からの引き継ぎ事項確認
- (2) 4月10日管内中学校長会議
  - ・研究組織等の発表
  - ・研究主題の提案、各校への協力要請
- (3) 4月18日県中学校長会第1回研究部会
  - ・令和8年度県・東北大会発表について
  - ・研究主題等の確認
- (4) 5月13日管内中学校長会第1回理事会
  - ・県中学校長会第1回研究部会の伝講
- (5) 6月12日管内中学校長会第1回研究協議会及び第1回研究部会
  - ・令和8年度に向けた研究の方向性確認
  - ・県中学校長会第1回研究部会の伝講
  - ・調査の進め方、アンケートについて
- (6) 8月29日県中学校長会第2回研究部会
  - ・令和8年度県・東北大会研究主題について
  - ・研究の進め方、まとめ方について
- (7) 8月30日管内中学校長会第2回理事会
  - ・第1回研究部会報告と提案審議
  - ・県中学校長会研究部会の伝講

- (8) 9月11日管内中学校長会第2回研究協議会及び第2回研究部会
- ・研究の目的確認と見通しについて
  - ・役割分担と調査アンケート内容について
- (9) 10月9日県研究協議会本吉大会聴講
- (10) 10月17日全日中校長会研究協議会聴講
- (11) 12月3日管内中学校長会第3回理事会
- ・第2回研究部会報告
- (12) 12月16日第3回研究部会（メール共有）
- ・内容共有&調査アンケート案の検討
- (13) 2月7日管内中学校長会第3回研究協議会及び第4回研究部会
- ・進捗状況の確認並びに次年度の取組検討

## 2 アンケート項目について

本稿執筆時点では、下記アンケート内容をたたき台として、実施に向けた準備を行っている。

### 【校長が回答】

- 1 学校名をご入力ください。  
(○○○立●●中学校)
- 2 生徒数を選んでください。
- 3 教職員数（校長＋見合定数＋加配＋養護教諭＋事務職員＋栄養教諭＋栄養職員）を選んでください。
- 4 通常学級数（全学年の合計）を選んでください。
- 5 特別支援学級数（全学年の合計）を選んでください。
- 6 常設部活動数（運動部と文化部の合計）を選んでください。同じ種目で男女別に設置している場合は別々にカウントしてください。特設部・季節部は除く。
- 7 貴校職員（質問3の職員）各月の在校等時間が45時間～79時間の職員数をご入力ください。
- 8 貴校職員（質問3の職員）各月の在校等時間が80時間～99時間の職員数をご入力ください。
- 9 貴校職員（質問3の職員）各月の在校等時間が100時間以上の職員数をご入力ください。
- 10 在校等時間が100時間を超えた職員について、100時間を超えた月は年間で何回ありましたか。
- 11 在校等時間が多くなる大きな理由と思われるものを3つ以内で選んでください。
- 12 御校の部活動に、部活動指導員や部活動専門に勤務している職員はどのくらいいますか。次の中から選んでください。
- 13 次の業務について、地域との連携・協働を進めることは、学校の業務負担軽減や業務改善につながっているか（つながると思うか）。それぞれについて、「思い」「思わない」のどちらかを選んでください。
  - i 登下校の見守り
  - ii 各教科・総合的な学習の時間等の授業
  - iii 校内の清掃・環境整備等
  - iv 図書室の整理・貸し出し等
  - v 草刈り・剪定・花壇・校庭の整備等

vi 学校行事等の補助

vii その他

- 14 程度の差はあったとしても、ここ数年で働き方改革は進んでいると思いますか。
- 15 御校で行っている地域連携の取組の中で、働き方改革につながった取組をご記入ください。主なもので結構です。ない場合には未記入で結構です。
- 16 御校で行っている地域連携の取組の中で、負担が大きかったり、業務量（時間）が増えてしまう傾向にあるものがありましたら、ご記入ください。主なもので結構です。ない場合には未記入で結構です。
- 17 働き方改革を進めるために地域連携・協働として、どんなことが不足していると思いますか。考えられるものをご記入ください。

### 【教職員が回答】

- 1 現在、仕事と私生活を両立できていると感じますか。
- 2 質の高い授業をするために、授業の準備や自己研鑽の時間を確保できていますか。
- 3 十分な生徒理解のために、生徒と話す時間や一緒に活動する時間は、確保できていますか。
- 4 ご自身または同僚についての質問です。「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を守りつつ、上記2や3の時間を確保するためには、次の中からどんなことが必要だと思いますか。
  - ① 人員の増員
  - ② 部活動の地域移行
  - ③ 行事等の縮小
  - ④ 会議の縮小
  - ⑤ 校内外の研修会への参加の厳選
  - ⑥ 出張の厳選
  - ⑦ 勤務時間外の電話の自動音声への切り替え
  - ⑧ 苦情対応、ICT管理、地域連携等の専門職員の導入
  - ⑨ A I 等の ICT の機能強化

## IV 成果と課題

執筆時点で、研究が当初の予定より遅れていることが課題と言える。ただ、一部の人間で押し進めるのではなく、会議ごとに各校の校長先生方からご意見をいただき、大河原地区校長会としての取組になってきていることは成果であると言える。

## V おわりに

令和8年度に東北大会での発表機会が与えられている。地区校長会として、教育課題の解決を目指し、実践的な研究に取り組んでいきたい。

# 次世代の学校運営を担う人材の育成

～ 学校経営の実践例からの学びを通して ～

仙 台 地 区

## 1 はじめに

本年は、研究の3年目を迎えた。現代は、AIの普及や感染症の対応、社会情勢の変化や深刻な環境問題など、予測困難な時代の渦中である。各学校においては、不登校やいじめへの対応、学力向上、働き方改革、部活動の地域移行等の課題が山積している。これまで培ってきた学校の組織づくりを、これから学校を支えていく世代にどのように引き継ぐか。学校経営を担う校長としての喫緊の課題となっている。

このような課題に対して解決の糸口を見出すことが難しいのが現状である。そこで、経年実態調査と各校長の経験や助言、人材育成のために実践していることに重心を置き、共通理解を図ることで、校長として学校経営に生かし、課題解決のための一助とすることを想定し本研究を進めることとした。

## 2 研究目標

次世代の学校運営を担う人材の育成  
～ 学校経営の実践例からの学びを通して～

## 3 今年度の調査と分析と考察

### (1) 職員年代構成について

【分析】IV期（21年目以上）の教員が多い

IV期が最も多く、43.8%を占めている。50代～60代が多い傾向は、過去数年続いている。しかし、IV期の占める割合は、なだらかに減少傾向にある。

校務分掌の構成年齢は、若返りが顕著に見られる。令和6年度では、IV期の主幹教諭、教務主任、学年主任については16%～23%前後の人数の減少が見られる中、Ⅲ期については、主幹教諭が16.5%、教務主任が22.5%、学年主任（3学年）が10.9%と増加を示しており、I期の3学年主任も見られるようになってきている。この若返りは、研究主任、生徒指導主事、防災主任においてはさらに顕著に見られる。

【考察】今後経験年数の浅い教員がミドルリーダーになってゆく

### (2) 職員構成の特徴・課題

【分析】バランスが良いと考える割合が多い

令和6年度における年齢構成別を見ると、「バランスが良い」学校が12校と増えている（R5は8校）。年齢構成比率は変動が大きく、人事異動により各校の実情は毎年変化している様子が見える。それぞれの実情に合わせ、課題に対して工夫していることが分かった。

一方、職員の年齢構成、性別のアンバランス、若手教員の育成、次世代リーダーの育成、休職・病休者の対応等の課題を抱えている学校もあった。

【考察】若手教員の育成と人材不足が課題

職員構成の特徴から見えてくる課題は、若手教員の育成と人材（人手）不足である。

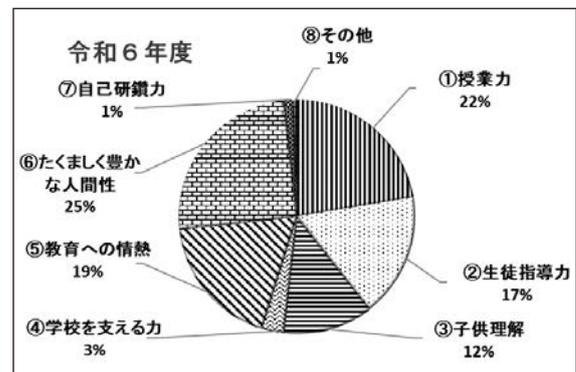
### (3) 校務分掌についての特徴・課題

【分析】若手を登用するが人材は不足している

特徴としては、「若手登用」が9校（R5は7校）と最も多く、「経験に応じた配置」「バランスがよい」「人材不足」「組織の工夫」「分掌の偏り」と続いた。課題としては、「人材不足」が最も多く、「分掌の偏り」「組織の工夫」「人材育成」と続いた。

【考察】分掌の偏りという課題解決のため人材育成が急務である

### (4) 求められる教職員の資質能力



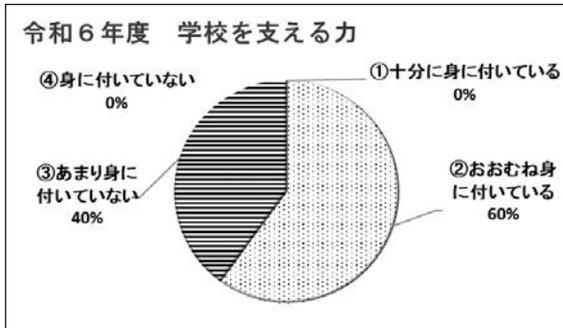
【分析】たくましく豊かな人間性を教職員に求めている

令和6年度における「校長が教員に最も求めたい資質能力」は、「たくましく豊かな人間性」で、3年間連続であった。そして「授業力」「生徒指導力」と続く。「子供理解」が昨年度より6ポイント減少している。

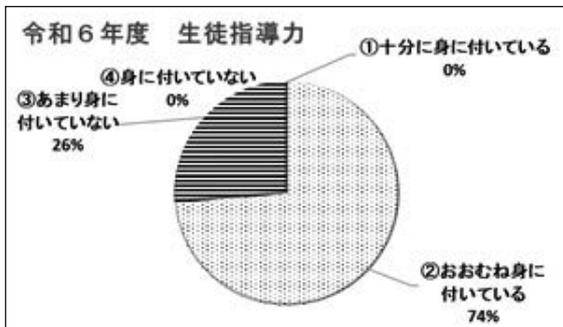
【考察】子供に関わる際の資質が大切だと考えている

(5) 求められる教職員の資質能力が身に付いているか

ア「学校を支える力」について



イ「生徒指導力」について



【分析】資質能力が身に付いていないと考えている

「学校を支える力」が「あまり身に付いていない」という回答が増えた。「生徒指導力」が「あまり身に付いていない」という回答が減った。

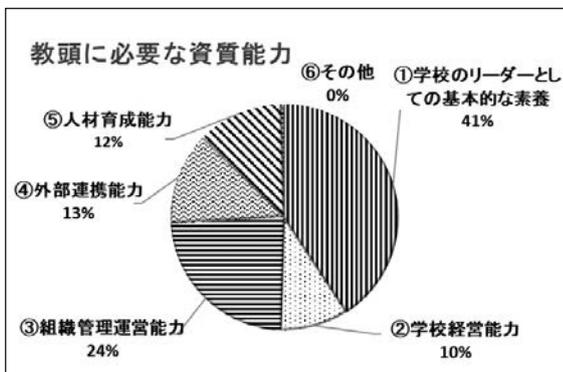
【考察】校長が意識して育成しないと能力の向上は難しい

(6) 自校の教頭（副校長）の年代

【分析】40代後半から50代前半が5割以上

【考察】管理職の若返りが始まっている

(7) 管理職（教頭）に必要な資質能力

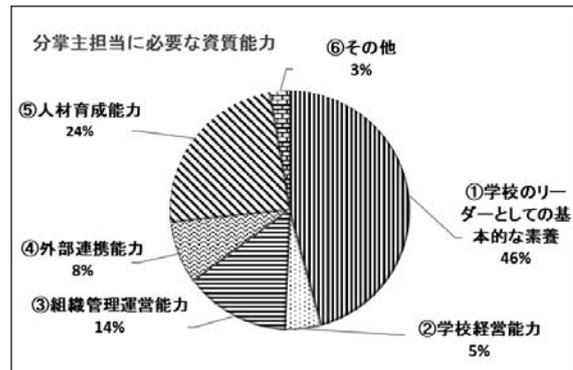


【分析】学校のリーダーとしての基本的な素養が必要

「管理職に必要な能力」について、3年間通して最も必要だと選択されたのが「学校のリーダーとしての基本的な素養」であり、令和6年度は、41%を占めた。2番目も3年間変わらず「組織管理運営能力」であった。変化が見られたのは、「外部連携能力」の増加と「学校経営能力」「人材育成能力」の減少である。

【考察】学校の要として励んでほしいの思いがある

(8) 分掌主担当に必要な資質能力



【分析】分掌主担当にも学校のリーダーとしての基本的な素養が必要と考えている

校長がとらえる「分掌主担当に必要な能力」について分析すると、「学校のリーダーとしての基本的な素養」46%であった。「人材育成能力」24%「組織管理運営能力」14%「外部連携能力」8%「学校経営能力」5%と続き、令和5年度と全く同じ結果である。

【考察】学校を背負う素養を身に付けてほしい

(9) 資質や能力を身に付けさせるために、校長として行っている取組

【分析】打合せや会議での指示や問い掛けなどを行っている学校が多い

取組の事例は次のとおり。

- ①学校のリーダーとしての基本的な素養 (44.7%)
- ②学校経営能力 (13.2%)
- ③組織管理運営能力 (18.4%)
- ④外部連携能力 (0%)
- ⑤人材育成能力 (13.2%)
- ⑥その他4名 (10.5%)

【考察】見識を深めさせたい思いがある

(10) 校長自身が教頭、主幹教諭の時に、さらに身に付けておけばよかったと感じること。

- ①学校のリーダーとしての基本的な素養 (23.7%)
- ②学校経営能力 (15.8%)

- ③組織管理運営能力 (28.9%)
- ④外部連携能力 (5.3%)
- ⑤人材育成能力 (23.7%)
- ⑥その他 (2.6%)

**【分析】組織管理運営能力を身に付けておきたかった**

回答から読み取れた「身に付けておくと良かった資質能力」としては、「組織管理運営能力(含法規理解運用能力)」が(28.9%)と最も多く、ついで「学校のリーダーとしての基本的な素養」「人材育成能力」(23.7%)であった。以下、順に「学校経営能力」(15.8%)、「外部連携能力」(5.3%)という結果になった。校長が、教頭に求める資質能力では、一番に求めるものは、「学校のリーダーとしての基本的な素養」である。しかし、自分が過去を振り返って考えた時に、「その時代に身に付けておけばよかったと思える資質能力」を考えると「組織管理運営能力(含法規理解運用能力)」「学校のリーダーとしての基本的な素養」「人材育成能力」がほぼ同様の割合となる。

**【考察】予測困難な学校課題に正対するために力をもってもらいたい**

①学校のリーダーとしての基本的な素養

校長として、様々な場面で求められる「最終決断」の力を育成するためには、全体を見た決断力・より適切な判断力を意識し、管理職としての職務に当たることの大切さを挙げている回答が多かった。研修や自己研鑽の時間をもち、分かりやすい伝え方や視野を広げることを通して、強みをもち、準備しておくことの必要性が挙げられた。

②学校経営能力

回答からは、様々な立場で学校経営に携わってきたものの、「校長であったら」という主体的な意識を強くもち、先生方や校長から多くのことを学びとることが必要であったという反省が挙げられた。また、学校や子どもを、取り巻く環境が変化していく中、公的な関係機関とも連携しながら、地域から信頼される学校、子どもを通わせたい学校経営は、どの学校でも目指すべきではとの回答もあった。

③組織管理運営能力(含法規理解運用能力)

組織を運営する上では、法規や学習指導要領、福利厚生に関わる制度等の理解を高め、根拠を明確に示すことが信頼や未然防止へとつながってい

くと捉えている。そのための、自己研鑽、研修等の必要性が挙げられた。

- (11) 次世代の教職員へのアドバイスや提言、身に付けてほしいこと、経験してほしいこと
- ア 校長の立場からアドバイス、提言

**【分析】意識に関するアドバイスや提言が多い**  
校長自身の体験や経験値から発せられたアドバイス・提言が多かった。内容から5つのグループに分類した。「意識」39%「意識・方法」21%「方法」16%「態度・行動」21%「知識」3%であった。

**【考察】期待に応え信頼される教職員へと成長していかなければならないと考える**

- イ 校長の立場から身に付けてほしいこと

**【分析】教職員としての意識や姿勢そしてコミュニケーション能力がキーワードとなる**

回答は、管理職としての「意識」「姿勢」「資質・能力」等といったキーワードで分類ができ、半数近くが教職員としての意識・姿勢・コミュニケーション能力の在り方を挙げていた。

**【考察】信頼される学校経営ができる力を身に付けてほしいと期待している**

管理職には、経営のビジョンをもち、保護者・地域に信頼される学校経営ができるような力を身に付けてほしいと期待している。具体的には、以下のような6つの指標に整理できる。

- ・子供のためにとという教職員の熱意と労務管理を両立し、働きがいのある職場をつくり出すこと。
- ・職員に温かさをもち、キャリアデザインを共有して適切に指導するなど、人材を育成すること。
- ・学力向上に関する具体策を常に検証し、教育課程の改善と授業についての確に指導すること。
- ・いじめや不登校、生徒指導上の諸問題に対し、関係機関と連携し、リーダーシップを発揮して組織的に解決を図ること。
- ・服務規律やコンプライアンスをはじめ、危機管理に対する高い見識と行動力をもつこと。
- ・家庭や地域と積極的に連携し、人的資源の活用等により、ふるさとへの誇りと愛着を培う魅力ある学校経営をすること。

- ウ 校長の立場から経験してほしいこと

### 【分析】「自分の意志」「日々の努力」などがキーワードとなる

「自分の意志」「日々の努力」「人事異動」といったキーワードで分類ができる。教職員として課題をもち、粘り強く対応することや多様な経験を積むことで成長し続けることの大切さを挙げている。

### 【考察】教職員として成長し続けてほしい

管理職としてという側面だけではなく、教職員として成長し続けるために必要であろうという内容を校長の立場から経験してほしいこととして挙げている。

- ・自分の得意な内容や領域を見つけること。
- ・自分が得意な内容、領域を磨いていくこと。
- ・他の人がもっているもののよさに気づき、取り入れてみること。
- ・自分の知恵や経験が他の人のOJTに役立っていくことに気付くこと。
- ・異なる見方や価値観を受け入れること。
- ・若手や同僚に共感することができ、協働体制が構築できること。
- ・自分の知恵や経験を組織の中で生かせる場を模索すること。

## 4 成果と課題

### 【成果】

- ・本研究が校長としての意識改革につながった。
- ・学校規模や地域性が異なる中で、学校運営や学校課題解決に向かう時に、方向性の決定や解決への糸口となるような情報を集めることができた。
- ・分析、考察と進めていく中で、次世代の学校運営を担う人材の育成に対する手立てを、多面的な価値観や様々な経験から収集することができた。

### 【課題】

- ・3年間の研究の成果を、学校運営への活用はどう役立てていけるものにしていくか。
- ・自由記述の部分は、書き手の意図と読み手の意図に差が出る可能性もある。

## 5 おわりに

校長は、常に創意工夫や決断が求められる。その中で、経験値があることについては、一定のゆとりをもつこともできる。一方、経験がない、困難度の高い学校運営や課題については、躊躇し戸惑いも少なくない。また学校、生徒数、職員構成、

地域性、学校事情が変わるごとに、学校運営の方向性が変わり、同じ学校であっても状況が刻々と変化していく。そのような中で、本研究を3年間継続したこと、本研究に関わり、各学校から寄せられる声に触れる機会を得たこと、研究主題に沿った意見交流を経験できたことは、私たち研究部員にとって、学校経営の一助となった。10年先、ネクストリーダーにより、より良い学校運営が各学校において行われることを願うばかりである。



令和6年度	仙台管内中学校長会研究部会
高橋	睦子 (名取市立みどり台中学校)
白鳥	修 (山元町立山元中学校)
齋藤	守彦 (塩竈市立玉川中学校)
三浦	敏 (七ヶ浜町立七ヶ浜中学校)
佐藤	秋生 (岩沼市立玉浦中学校)
星	淳 (富谷市立富谷第二中学校)
大泉	真澄 (大和町立宮床中学校)
小山	順子 (松島町立松島中学校)

# 「多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成」

～ 教職員集団の総合力を高める校長の組織マネジメントの在り方 ～

北 部 地 区

## 1 研究の趣旨

### (1) 今日の課題から

令和3年1月中央教育審議会答申において「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～」が示された。その答申では、「令和の日本型学校教育の姿」が実現されるための「教職員の姿」や、「教職員の養成・採用・研修の在り方」も述べられている。多様化する課題の中で、答申に示されている「環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けている」「子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている」「子供の主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている」教師を教職員集団としての総合力を高めるマネジメントを通しながら、いかに育成するかを探るため、本主題を設定した。

### (2) 昨年度の研究から

昨年度は、校長が学校経営を行う中で感じている「教員に伸ばしてほしい（力を付けてほしい）資質能力」と「教員自身が伸ばしたい（力を付けたい）資質能力」にどの程度の乖離があるかを知るため、管内の校長及び校長以外の職員を対象にアンケート調査を実施した。乖離の程度を知ることで、互いの（校長と校長以外の教員）共通理解の下、資質能力の向上を図りたいと考えた。さらに、校長が感じる「学校課題」や「教員の育成に関する課題」を調査し、次年度の研究につなげたいと考え、研究を進めた。

調査結果から、「伸ばしてほしい（伸ばしたい）資質能力」として乖離が大きかった項目は「教育への情熱」であった。校長は、多様化する学校課題を解決するために教員に「教育への情熱」をより強くもってほしいと

感じているが、校長以外の教員は、十分もっていると感じている。一方、乖離が小さかった項目は「授業力」で、校長及び校長以外の教員のそれぞれ半数以上が、その必要性を感じていた。これは、令和の日本型学校教育で求められる授業スタイルの確立に向け、その必要性を感じている結果であると推察した。校長が感じている学校課題としては、「特別な配慮の必要な生徒の増加」「教員不足、働き方改革等」が多く挙げられており、教員の育成に関する課題については、「主任層やミドルリーダーの育成」「生徒指導技術の伝達」「初任層への指導」が挙げられていた。

## 2 研究の概要

### (1) 研究目標

本地区における教員の育成はどのようにあるべきか、より実践的で効果的なマネジメントの在り方を探り、学校経営の充実に資する。

### (2) 研究計画

年 度	内 容
R 5 (1年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究主題決定</li> <li>研究の方向性の確認及び計画立案</li> <li>実態調査の実施①</li> <li>調査結果の分析、考察</li> <li>今年度のまとめと次年度の計画等</li> </ul>
R 6 (2年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態調査の実施②</li> <li>調査結果の分析、考察、検証</li> <li>各校の状況や実践事例の集約</li> <li>今年度のまとめと次年度の計画等</li> </ul>
R 7 (3年目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究の成果と課題のまとめ</li> <li>県大会発表に係る役割分担や準備</li> <li>県大会での発表</li> <li>次年度の研究の方向性の確認</li> </ul>

### 3 今年度の研究の内容

昨年度の調査結果を踏まえ、各校の学校課題を解決するための取組や教員の育成に関する取組を集約し、その実践例を紹介（各中学校長へ）することで学校経営の一助とする。

### 4 今年度の研究の実践

#### (1) 実態調査にあたって

- ① 学校課題を解決するにあたり、現在または過去に行った取組とその効果について調査する。また、今後計画している取組などについても調査を実施する。
- ② 教員の育成に関して、現在または過去に行った取組とその効果について調査する。また、今後計画している取組などについても調査を実施する。

#### (2) 調査結果について

##### 【学校課題解決の取組】

○教職員の働きやすい環境づくり・教職員の良好な人間関係づくりに関する実践例

- ・アンケート調査をもとに、職場の課題等を共有し、改善策について職員全体で話し合った（ウェル・ビーイング会議）結果、全体で効率的な会議の進め方や定時退庁日等を設定していくことを決め、現在実践中である。
- ・「ウェル・ビーイング会議」「チーム会議」を実施したことで、教職員一人一人に学校運営への参画意識が高まった。
- ・「定時退庁日宣言（定時退庁日を自由に決めて宣言して帰宅）」を取り入れたことで、計画的な仕事のやりくりをするようになった。
- ・定期的に職員と面談し、職員の率直な思いを聞くように努めたことで、働きやすい職場になっているという声が多く寄せられるようになった。
- ・行事等の後、全体で（都合のつく人）飲み会を行い、いろいろな話をみんなとしている。多くの人に参加し、話や相談がしやすい雰囲気になっている。
- ・いつも笑顔で、明るい挨拶を心掛けている。先生方もお互いに明るく挨拶をしている。
- ・職員会議前の短時間で「MAP」を実施した。

お互いの新たな面についての発見や人間関係の構築に役立っていると感じる。

- ・現職教育の一環としてレクリエーションを実施した。職員室の雰囲気が明るくなった。
- ・テスト期間中のレクリエーション（体育館で球技）を実施した。特に、若手教員のまとまりの良さにつながった。
- ・放課後を利用して職員レクリエーションを行ったり、中総体前に職員チームと生徒との壮行試合を行ったりした。その結果、職員間のコミュニケーションが増え、同僚性も向上した。

#### ○校内研究・研修の充実に関する実践例

- ・協働での授業づくり（チーム）で授業力の向上につながっている。
- ・校内研究のチーム分けを日常の取組とリンクさせ、そのチームリーダーを若手（3年目～7年目）の教諭にし、ベテラン層はアドバイス役として支えるというもの。若手のアイデアを全員で支えることで、日常の取組が学年に偏らず、学校全体としての実践ができるようになった。
- ・「先輩の話を聞く会」を実施したことで、先生方同士のつながりが深まった。先生方の隠れた才能を垣間見ることもできた。

#### ○校務分掌等の工夫に関する実践例

- ・若い先生方の考えを積極的に取り入れるため、運営委員会メンバーを分掌部各部長としている。この取組を通して、若い先生方が中心となって分掌部の話し合いを行ったり、実行委員生徒と一緒に検討し先生方と生徒が共に考えたりしながら、各行事の内容を詰めるなど、これまでよりも生徒主体の取組を推進することができている。また、若い先生方のやりがいにもつながっていると感じる。
- ・校務分掌の中で、研究主任と防災主任を若手教諭にしたところ、新しい取組に挑戦しようという雰囲気が職員室内で生まれた。
- ・共に学ぶ教育推進事業の指定を受けたことで、分からない所を皆で確認して進めていこうとする気概が出てきた。
- ・校務分掌の所属部会を明確化し、部会（チー

ム) ごとに企画・検討することで、主任クラスの負担軽減と若手人材育成を進めている。所属部意識が高まり学年を超えて相談しながら校務運営に携われる状況(雰囲気)をつくり出している。

- ・学年主任は、毎週1回の教務部会において学校全体で取り組む方向性を確認したり、学年行事に関する協議を行ったりしている。
- ・会議の精選を行う中で、新たに「別室登校教室会議」を設定したところ、別室を利用する生徒の情報共有がスムーズになった。

#### 【教員の育成に関する取組】

○初任者層や主任・ミドルリーダー層などの人材育成に関する実践例

##### <全体への働き掛け>

- ・校長室便りや打合せ資料等の中で、学校運営に係る資料を提示した。
- ・職員室便りを発行し、学級通信の在り方、書き方、特別活動についてのアドバイス等を行った。資料等も例示したところ、活用が見られた。
- ・校長が具体的な職員の行動を提示することで共通行動が図られ、チームとして学校運営に携わる意識が全職員に生まれた。
- ・所属意識の高揚を図る工夫により、学年を超えた取組や相談、共通行動が図られた。
- ・短いスパンでの達成目標あるいは課題を一つ決めて、その解決に全員で取り組んだ。
- ・年度始めに、校長が「学校経営方針」や「先生方にどのような考え方で子どもと接し、育てていてもらいたいのか」を明確に示した。そうすることで、教職員が(手段は様々ではあるが)同じような意識で同じような方向に向かって教育活動を展開している。雰囲気も明るくなったと感じる。責任を取るのは校長であることの明言により、教職員一人一人が自分らしくやれているのかも知れない。
- ・全体には情報の共有を繰り返し呼び掛け、組織的な対応を推進している。
- ・給食の時間に担任を入れ替える「誰でも担任制」をある一定期間導入したことで、多くの目で子どもたちを見ることができ、生徒指導

の視野が広がった。

- ・「チーム担任制」を導入し、多くの目で学年の生徒を見ることで、担任不在時でも学年全体で対応できるようになった。
- ・「学級担任会」を設定したことで、学級担任が自由に相談できる雰囲気づくりができるようになった。
- ・まずはとにかく見る(見てあげる)ということ。しかし、多くは語らないことである。どうしても必要と思った時には、一対一で話をする。その際にも、内容的には厳しいことであっても、そう思わせないような雰囲気づくりと伝え方に気を付けている。
- ・個別面談を通じた意図的な働き掛け(校長として、その先生に期待することを具体的に述べること)によって、先生方のモチベーションの維持・向上につながっていると思う。
- ・授業や部活指導の様子を参観し、改善点等を個別に指導している。その結果、ICTの活用方法等で改善が見られた。

##### <初任者層への働き掛け>

- ・初任者層には、ベテラン層とペアを組ませ校務分掌のチーフを任せることで、OJT教育を推進している。
- ・初任1年目の教諭に対し、OJTの先生方が普段から働き掛けている。複数の先生方が役割を越えて育てていこうとする雰囲気が見られた。
- ・初任者の授業参観を行い、授業づくりについての話合いの機会を設けている。
- ・初任3年目教員に、主に授業づくりに関する県外研修の機会を与えている。また、新卒採用教員には、学年主任や中堅教員と一緒に学級経営に当たる体制を一定期間(1学期間を目安にしている)とすることで、円滑な学級経営を目指している。夏休みの三者面談も学年主任等と一緒に実施することで、保護者との良好な関係づくりを目指している。

##### <主任・ミドルリーダー層への働き掛け>

- ・主任・ミドルリーダー層には、個々の特性を見極め、研究主任や学年主任といった学校運営の中核をなす校務分掌に積極的に登用し、

育成を図っている。

- ・若手中堅層には、分掌部の中心としての役割を担ってもらっている。また、主任層には、学年経営とともに、所属教員の状況を気に掛け、積極的に声掛けをお願いしている。
- ・主任層の先生方との連携を取り、意見を聞きながら、経営計画を達成できるよう支援している。
- ・学年主任者会を実施し、横の連携を深め、足並みをそろえることができた。
- ・管理職等選考受験者に対する研修を行ったことで、根柢をもって業務に当たる姿勢が見られるようになった。
- ・教育法規、学校経営等の話題提起を行った。

#### 【今後取り組んでみたい方策】

- ・働き方改革プロジェクトチームを結成し、ワークショップを行う。現在の働き方を見直し、より良い働き方や教育活動の展開が図れるような具体的な取組を提案していく。
- ・現在行っている初任者層へのOJT、主任・ミドルリーダー層の学校運営の中核をなす校務分掌への積極的な登用を更に図っていききたい。
- ・初任層から新しい学校行事等の企画を提案させて、チーフとして実践させる。
- ・今現在行っている諸会議や各種委員会等を活用し、新たに項立てをするなどして研修の機会を確保していききたい。
- ・子供たちが学ぶ楽しさや面白さを味わうことができるような授業づくりについて、全校で取り組んでいく。全員で取り組むというところに重点を置いていきたい。
- ・ミドルリーダー向けの研修を実施し、心構えや期待していることについて講話をした後、悩んでいることややってみたいことを情報交換させ、意欲の向上につなげたい。
- ・職員会議後の10分間で「先輩の話を聞く会」を実施したい。
- ・外部講師を招いてのリーダー研修会等を実施したい。

#### (3) 考察（今年度のまとめ）

学校課題の解決に向けては、「ウェル・ビー

イング会議」の実施や校内研究・研修の推進、校務分掌等の工夫と、どれも個々での解決を目指すのではなく、学校全体で課題を共有し、組織（チーム）として解決に当たっている取組が多く見られた。また、組織としての機能を最大限に発揮するために、縦だけでなく横のつながりも充実させるための取組（レクリエーションやMAP等）を実施し、良好な人間関係づくり（風通しの良い職場）を目指した取組も見られた。

教員の育成に向けては、校長による全体または個人への働き掛け（声掛け）によって、職員のモチベーションの向上につなげたり、中堅層の教員を中核的な校務分掌に積極的に登用することで、校内の活性化を図ったりといった取組が見られた。また、OJTの活用や「誰でも担任制」「チーム担任制」等、複数の教員でフォローすることで初任層の育成を図った取組も見られた。

## 5 次年度の研究に向けて

今年度集約した各校の取組を、次年度の早期に北部管内中学校長会等で紹介する。紹介した取組を基に、実際に各校で取り組んでみた際の感想や今後取り組んでみたい実践例や新たな実践例などを募ることで、校長としてのマネジメントの在り方を探り、学校経営の更なる充実を図っていききたい。

#### ＜研究部員＞

岡	明子	（大崎市立松山中学校）
高橋	理香	（大崎市立岩出山中学校）
三浦	美紀	（大崎市立田尻中学校）
山口	れい子	（栗原市立栗原西中学校）
加藤	純一	（栗原市立栗駒中学校）
岩淵	謙	（色麻町立色麻学園）
野家	智昭	（涌谷町立涌谷中学校）

# 「カリキュラム・マネジメント」の推進

～ 生徒の学びの質向上に向けた取組 ～

## 本吉地区

### I はじめに

急激な社会環境の変化の時を迎え、学校は「令和の日本型学校教育」の構築を目指し、全ての生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現が求められている。

これまで、一斉授業の中で、同じ教材を、同じ道筋とペースで、教師からの教えに沿って進めてきた学習を、「自ら考え表現し学ぶ力」を育てるために、生徒自身が自分に合った学び方やペースで、互いに学び合う学習へと授業を転換しなければならない。また、この学びは授業に限らず、行事等の特別活動や部活動、家庭における学習等、生活全体を通して実現できるものである。特に「個に応じた学び」は、個別的な指導や生徒自身が選択して取り組む学習が効果的であり、放課後や家庭での学習も充実させる必要がある。

そのためには、生徒と教師の双方において、その学びに充てる時間を確保する必要がある。気仙沼市では、今年度から一斉に5時間授業日を週あたり2～3日設定する方針を打ち出した。これを機に、地区全体で各校の活動を見直し、「生徒の個に応じた学び」「教員が生徒と向き合う時間や授業改善のための準備」等に充てる時間を創出するためのカリキュラム・マネジメントを推進すべく、本主題を設定した。

### II 研究の概要

#### 1 研究期間

令和6年度から令和8年度までの3年間

#### 2 研究対象

本吉地区中学校11校

#### 3 研究内容

- (1) 各校のカリキュラム・マネジメントに関する教職員の意識調査を行う。
- (2) 調査結果をもとに、課題を集約するとともに、参考となる取組を共有し、各校の実践に生かす。

(3) 各校の実践事例及び成果と課題を集約する。

(4) 2年間の実践事例をまとめ、共有し、学校経営に生かす。

#### 4 研究計画

- (1) 1年次（令和6年度）
  - ・研究主題決定
  - ・研究の方向性の確認、計画立案
  - ・実態調査①の実施と分析
  - ・実践事例①の集約
- (2) 2年次（令和7年度）
  - ・実態調査②の実施と分析
  - ・実践事例②の集約
  - ・各校の状況や課題について
- (3) 3年次（令和8年度）
  - ・研究の成果と課題のまとめ
  - ・県中学校長会研究協議会での発表
  - ・次年度研究の方向性の提案

### III 研究の実践

#### 1 実践事例

- (1) 生徒の学びの質向上に充てる時間の創出
  - ① 行事等の精選・重点化
    - ・文化祭の内容を、行事・教科・放課後の時間に分散して開催し、時数削減と準備を簡素化
    - ・行事の内容を教科の授業時数内で指導可能なものに精選
  - ② 行事準備の簡素化・省力化
    - ・時程を工夫し、授業以外でも練習や準備の時間を確保（運動会の種目練習、合唱練習）
    - ・長期休業前後の全校集会、壮行会、生徒会選挙等は授業時間外で実施（放課後、昼の放送）
    - ・全教職員を「運動会」「文化祭」の担当に分け、負担の平均化・省力化
    - ・探究活動の時間を放課後に設定（講演

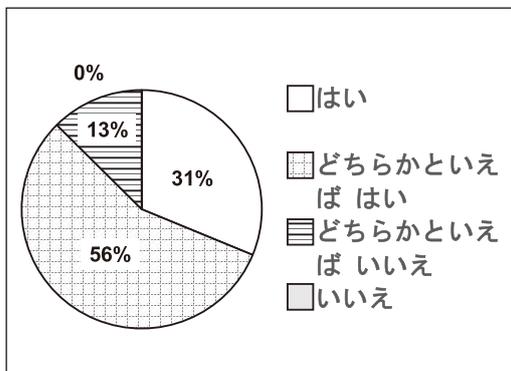
- 会，ワークショップ，フィールドワーク)
- ③ 部活動時間の設定の工夫
- ・5時間授業日の部活動終了時間の繰り上げ
  - ・5時間授業日の部活動は週1日
  - ・平日3日の部活動とし，1日は全校で放課後学習会
  - ・冬季（オフシーズン）は，体育科主導の「合同トレーニング」導入による時間の有効活用
- (2) 個に応じた学び，自己決定による学びの質向上
- ① 放課後学習，自己選択学習
- ・5時間授業日の放課後に実施
  - ・生徒の自主学習（A Iドリル，問題集，ノート）とし，全教職員が学年を問わず指導・支援
  - ・教科ごとに放課後学習会を開催し，生徒が内容を選択（基礎コース，応用コース，各種検定コース等）
  - ・短時間の学習会を繰り返し実施（1回20～30分，同内容を数回繰返し）
  - ・生徒のリクエストに応じた柔軟な内容の学習会の開設
  - ・学習会のネーミングを工夫し意欲喚起「数学の図形：すっきり解決，角度の問題」「古典の雅な世界へようこそ！」
  - ・ALTとの放課後英語学習会（リスニング，単語や英文法，スペシャルクイズ，異文化理解）
- ② 家庭学習の質向上
- ・自主学習ノートによる添削指導，模範例の紹介
  - ・日常的な予習課題の提示
  - ・家庭学習コーナーの設置（自分で教科や内容を選べるプリントの設置）
  - ・キュビナ活用推進のため「キュビナタイム」を設定（週1回，朝の時間10分）
  - ・ロイロノートを活用した教員への提出や内容の指導
  - ・タイムマネジメントのためのセルフプランシートを活用し放課後学習から家庭学習へ往還
- ③ 授業改善
- ・総授業時数の20～35%を目標に単元内自由進度学習を行い，それを研究授業とした校内研修会を実施
  - ・総合的な学習の時間で個人探究
- (3) 教職員の働き方改革による教材研究の充実，生徒と向き合う時間の確保
- ① 校内研修体制の工夫
- ・5時間授業日の放課後に研修会を設定
  - ・研修内容の充実（探究学習研修会，防災研修会，生徒指導研修会）
  - ・より深まりのある授業研究とするために，全ての教員に共通の「道徳」を研究の教科に設定
- ② 会議，打合せの時間短縮の工夫
- ・連絡事項はスプレッドシートで共有し，打合せ回数を削減
  - ・生徒指導情報交換の場と職員会議を切り離し，会議時間を短縮
  - ・資料を事前配布し会議では復唱せず，職員会議時間を短縮（1時間限定）
  - ・会議時間の配分を事前に提示し，定刻終了を徹底
  - ・学年部会，分掌部会等は，空き時間に組み込み，放課後会議の削減
- ③ 日常の教育相談体制の工夫
- ・「話したい教職員との10分間面談」を年度当初に実施し，学年・学級の枠を超えた相談体制の拡充
  - ・学年主任や副担任も教室で給食をとり，昼休みまで学級にすることで，様子を見取り，相談しやすい環境を創出
- ④ 生徒会活動の充実
- ・生徒が企画する活動を増やし，生徒相互，生徒と教員との関係性を深化（縦割り球技大会，委員会コラボ事業）
- 2 アンケート結果
- 研究初年度となる今年度は，各校ごとに進めている取組を振り返り，その効果を検証するための意識調査を行うこととした。以下の結果は，11月末時点での調査結果である。

【教職員意識調査結果】

(1) 学校の取組について

(教頭・主幹・研究主任対象)

- ① あなたの学校は、生徒の学びの質向上に向けたカリキュラム・マネジメントを推進できているか



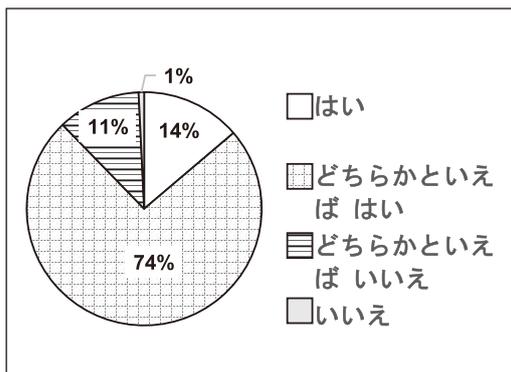
87%が自校のカリキュラム・マネジメントは推進できていると捉えている。一方で半数以上は「どちらかといえば」との回答であることから、まだまだ工夫・改善の余地はあると考える。

推進に当たって課題として挙げられた項目は、「授業改善」「家庭学習の質向上」の生徒の学力向上に関することと、「時間の創出」「行事等の精選」の教育課程に関することが60%と高い。また、働き方改革として教員のゆとり時間の確保もねらっていたにも関わらず、「教員の多忙感の緩和」が依然として課題とされている点は今後検証が必要である。

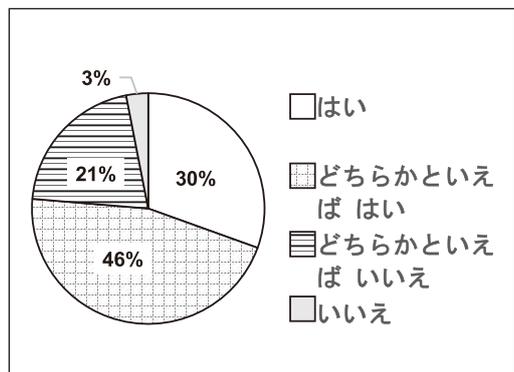
(2) 生徒の学びの質向上に向けた取組について

(全教職員対象)

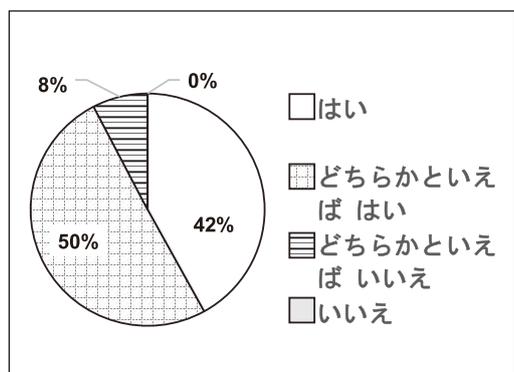
- ① あなたは授業の中で、生徒一人一人に合わせた指導をしているか



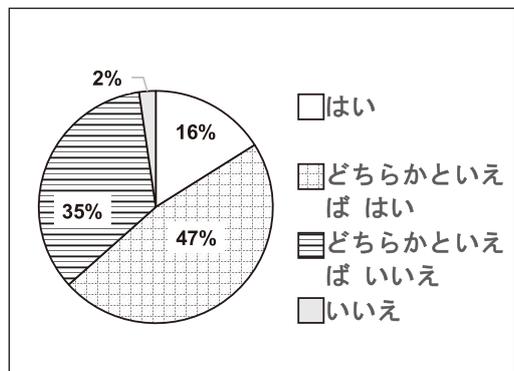
- ② あなたは授業の中で、生徒が課題や活動を選択して取り組めるようにしているか



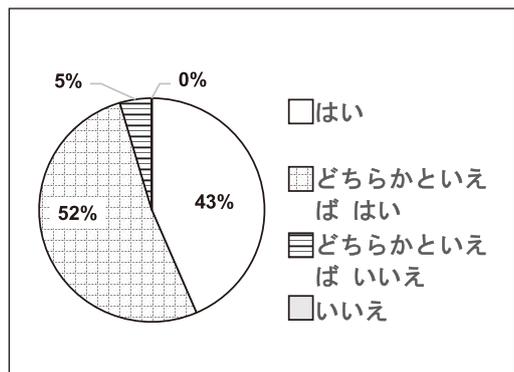
- ③ あなたは授業の中で、協働的な学びを取り入れているか



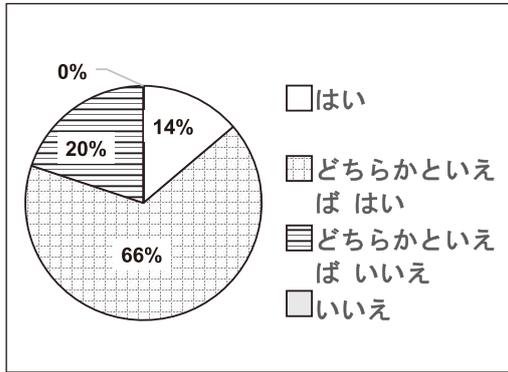
- ④ あなたは授業の中で、探究的な学びを取り入れているか



- ⑤ あなたは授業の中で、単元構想をもとに、それを意識した授業を実践しているか



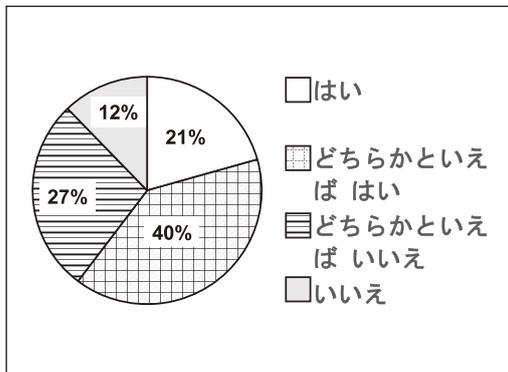
⑥ あなたの授業は、生徒の学びの質向上につながったか



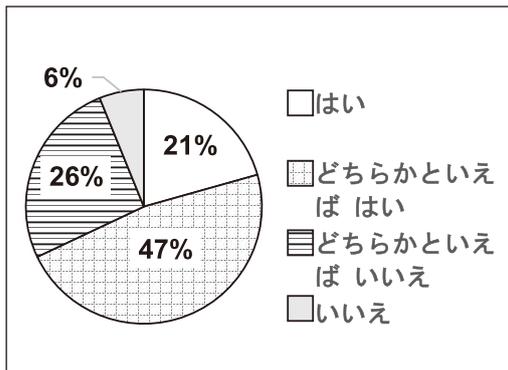
「協働的な学び」「単元構想を意識した授業」は、程度の差はあるが90%以上が意識的に取り組んでいる。「探究的な学び」「自己選択する学び」は、取組が進まない教員も多く、わずかではあるが全く取り組んでいない教員もいることから今後の課題といえる。

(3) 教職員の働き方改革に関するものについて  
(全教職員対象)

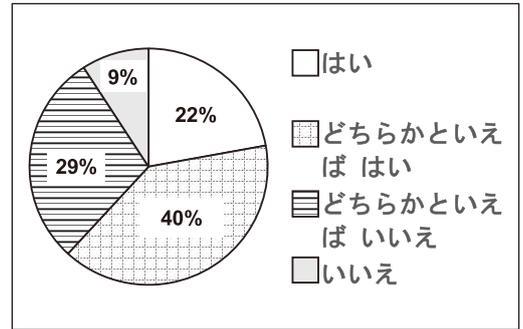
① 昨年度までと比較して、教材研究の時間は増加したか



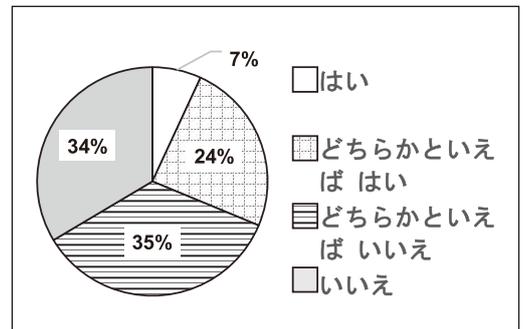
② 昨年度までと比較して、生徒と向き合う時間は増加したか



③ 昨年度までと比較して、校内研修の時間は増加したか



④ 昨年度までと比較して、多忙感は緩和されたか



「教材研究」「生徒と向き合う」「校内研修」については、昨年度までと比較して時間が確保されたと捉えている教員が半数以上いることから、一定の成果は上がっていると捉えられる。一方で、40%は否定的な回答であり、さらに「教員の多忙感」については、緩和されたと感じるのは31%にとどまる。研修の時間や生徒と向き合う時間は確保されても、授業改革や放課後学習会等の新たな取組を軌道に乗せるための精神的負担は予想され、それが多忙感の一つの要因となっていると思われる。

#### IV 成果と課題

研究初年度ではあるが、各校において、授業時数や行事を見直すことで生み出された時間を活用し、生徒の学びの質向上につながる取組が確実に実践されていることが教職員の意識から読み取れる。

今後は、さらに焦点を絞って実践を重ね、より効果的な取組を共有できるよう研究を推進したい。また、教職員の働き方改革も本研究のねらいのひとつでありながら、多忙感は緩和されていないことは大きな課題である。その原因についても検証が必要であると考えられる。

# 「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成

## 東 部 地 区

### I はじめに

GIGAスクール構想、熱中症、いじめ、学校不適應、不登校を支える学習環境の整備、部活動の地域移行等、学校における教育課題が多様化、複雑化する現在、持続可能な学校教育の推進を図るため教員の資質能力の向上が重要になっている。

令和4年に改正された「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針」では、共通的に求められる資質能力について、①教職に必要な素養、②学習指導、③生徒指導、④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応、⑤ICTや情報・教育データの利活用の5つに整理された。

宮城県では、令和4年の中央教育審議会答申を受け、校長及び教員の資質に関する指標を「みやぎの教員に求められる資質能力」として策定し、令和6年1月に改定したところである。その内容では、管理職について「校長」と「副校長・教頭」に新たに区分された記載となり、「学校経営能力」の内容を拡充するとともに、「人材育成能力」において、校内研修の企画や研修受講等の助言・指導等について追記されている。また、「ICTや情報・教育データの利活用」の能力についても、学校の教育能力を構成する実践力全てに関わるものであり、全ての教職経験段階等を通じて求められる資質能力として位置付けられている。

以上を受け、本研究では、本地区の「人材育成に関するアンケート」を切り口として、現状の分析と考察を行い、効果的な研修の実践事例の集約・紹介を通して、いかに教師を育成するかを探るために本主題を設定した。

### II 研究の概要

#### (1) 研究目標

本地区における教員の人材育成について、現状の分析と考察を行い、効果的な研修の実

践方法を探ることにより、学校経営の充実に資する。

#### (2) 研究計画

- ① 令和6年度（1年目）
  - ・研究主題決定
  - ・研究の方向性の確認及び計画立案
  - ・人材育成に関する実態調査の実施
  - ・調査結果の分析、考察
  - ・まとめと次年度の計画等
- ② 令和7年度（2年目）
  - ・各校の現状や研修の実践事例の調査
  - ・調査結果の分析、考察、検証
  - ・課題の共有と課題解決に向けた取組の検討
  - ・まとめと次年度の計画等
- ③ 令和8年度（3年目）
  - ・各校の研修の実践事例の調査
  - ・研究の成果と課題のまとめ
  - ・研究の方向性の確認

### III 研究の実践

#### (1) 東部地区中学校長会「人材育成に関するアンケート」

研究を進めるにあたり、以下の内容についてアンケート調査を行った。

- ① 経験年数別の人数
- ② 職、校務分掌別の年齢
- ③ 職、校務分掌別「現状で概ね身に付いていると思われる資質能力」
- ④ みやぎの教員に求められる資質能力別「教職員に身に付けさせたい資質能力の内容」
- ⑤ 大切だと思う学校運営能力
- ⑥ 大切だと思う人材育成能力
- ⑦ 『令和の日本型学校教育』を担う教師の育成に関する工夫、実践、課題

#### (2) アンケート結果の分析と考察

上記のアンケートを受けて、③職、校務分掌別「現状で概ね身に付いていると思われる

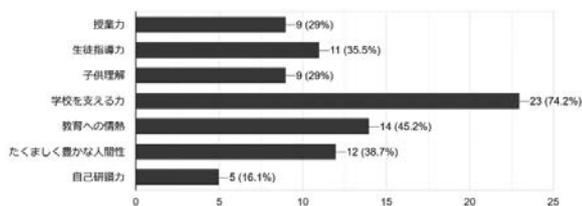
資質能力」について、結果の分析と考察を行う。また、⑦『令和の日本型学校教育』を担う教師の育成」に関する工夫、実践、課題の記述内容を挙げる。

**【質問】**

教職員の資質能力について、現状で概ね身に付いていると思われるものを選んでください（3つ以内）。

**(ア) 教頭**

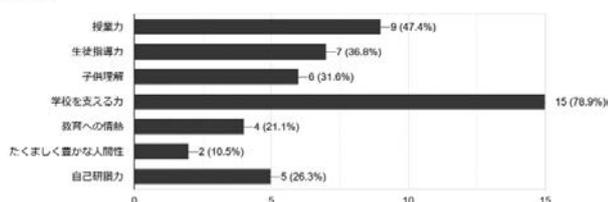
3 教職員の資質能力について、現状で概ね身に付...を選んでください（3つ以内）。 【教頭】  
31件の回答



- ・年齢構成は、50代77.4%、40代22.6%で、50代が大半を占めている。
- ・概ね身に付いていると思われる能力は、「学校を支える力」が最も多く、次いで「教育への情熱」となっている。
- ・「学校を支える力」の内、特に身に付けさせたいことは、「教育目標の実現に向けて学校づくりに積極的に参画し、担当する授業や校務分掌における自己の役割と責任を自覚すること」「他の教職員とコミュニケーションを保ち、協働できる協調性をもつこと」の2つが同数で最も多い。「教育への情熱」のうち特に身に付けさせたいことは、「教育者としての高い倫理観と責任感をもつこと」が最も多く、「子供たちに対する深い愛情をもつこと」が2番目となっている。
- ・教頭として「役割や責任の自覚」「風通しのよい職員室づくり」を期待されていること、また、教員として大切なことを教頭が模範となって示すことを期待しているものと思われる。

**(イ) 主幹教諭**

3-1 教職員の資質能力について、現状で概ね身... 【主幹教諭】※該当者なしの場合は空欄  
19件の回答

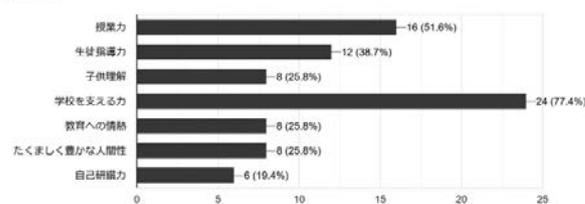


- ・年齢構成は、50代68.4%、40代31.6%で、教頭と比較して40代の割合が大きくなっている。
- ・概ね身に付いていると思われる能力は、教頭と同様に「学校を支える力」が最も多く、次いで「授業力」「生徒指導力」となっている。
- ・「学校を支える力」の内、特に身に付けさせたいことは、教頭と同様に「教育目標の実現に向けて学校づくりに積極的に参画し、担当する授業や校務分掌における自己の役割と責任を自覚すること」「他の教職員とコミュニケーションを保ち、協働できる協調性をもつこと」である。「授業力」の内、特に身に付けさせたいことは、『授業のプロ』であるための基盤となる教科等に関する専門的知識や技能」が最も多く、「生徒指導力」では、「子供たちの人間性や社会性、生活習慣や規範意識を育むための適切な生活指導ができること」である。

- ・主幹教諭は、教頭を補佐する立場にあることから、学校づくりに積極的に関わることや教職員とのコミュニケーション力が求められているものと考えられる。また、「授業者のリーダー」として、学習指導における専門的知識や技能が求められ、生徒指導の面においては、職員に適切なアドバイスをするなど、模範となることを期待されているものと思われる。

**(ウ) 教務主任**

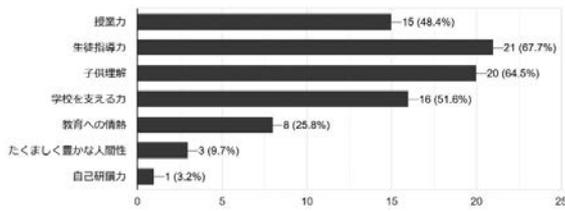
3-2 教職員の資質能力について、現状で概ね身... 【教務主任】  
31件の回答



- ・年齢構成は、50代51.6%、40代38.7%、30代9.7%で、主幹教諭と比較して40代の割合がさらに大きくなり、30代の教務主任も存在する。
- ・主幹教諭と同様に、概ね身に付いていると思われる能力は、「学校を支える力」「授業力」「生徒指導力」の順となった。
- ・教務主任は学校全体を見て校務にあたる立場にあることから、主幹教諭とほぼ同様の傾向となった。教務主任として「特に身に付けさせたいこと」も主幹教諭と同様である。

## (エ) 学年主任（副主任）

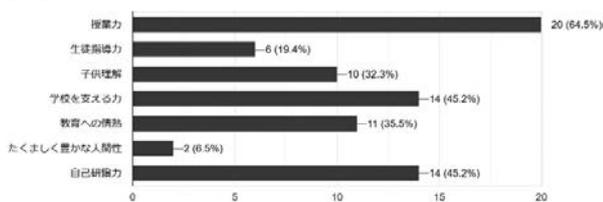
3-3 教職員の資質能力について、現状で概ね身...い（3つ以内）。【学年主任（副主任）】  
31件の回答



- 年齢構成は、60代29.0%，50代71.0%，40代64.5%，30代38.7%（複数回答可）で、50代に次いで40代の割合が大きい。
- 概ね身に付いていると思われる能力は、「生徒指導力」が最も多く、次いで「子供理解」の順になっている。
- 「生徒指導力」のうち特に身に付けさせたいことは、「子供たちの人間性や社会性、生活習慣や規範意識を育むための適切な生活指導ができること」が最も多い。また、「子供理解」については、「共感的コミュニケーションの力」「子供たちの心理を的確に把握して信頼関係を構築すること」が同数で最も多い。
- 学年経営にあたり、集団生活における社会性や規範意識の定着を第一に考えていることや、生徒に寄り添った指導にあたる力量が求められているものと思われる。

## (オ) 研究主任

3-4 教職員の資質能力について、現状で概ね身...んでください（3つ以内）。【研究主任】  
31件の回答



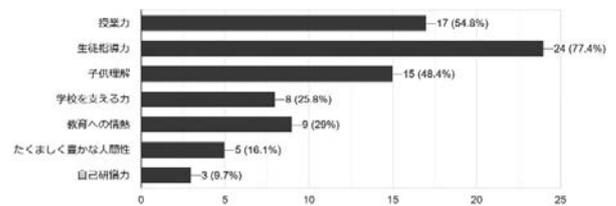
- 年齢構成は、60代3.2%，50代9.7%，40代38.7%，30代45.2%で、30代に次いで40代の割合が大きい。
- 概ね身に付いていると思われる能力は、「授業力」が最も多く、次いで「自己研鑽力」「学校を支える力」が同数である。
- 「授業力」の内、特に身に付けさせたいことは、「『授業のプロ』であるための基盤となる教科等に関する専門的知識や技能」が最も多い。「自己研鑽力」では、「自ら学び続け、成長し続ける意欲をもつこと」、「学校を支える力」では、「教

育目標の実現に向けて学校づくりに積極的に参画し、担当する授業や校務分掌における自己の役割と責任を自覚すること」「他の教職員とコミュニケーションを保ち、協働できる協調性をもつこと」が同数で最も多い。

- 研究主任には、学習指導に関する専門的知識や技能を備え、校内研究を先導してほしいという期待が表れていると思われる。また、研究主任自ら研修意欲を示し、学校づくりに積極的に参画するなど、模範となることが期待されていると考えられる。

## (カ) 生徒指導主事

3-5 教職員の資質能力について、現状で概ね身...ください（3つ以内）。【生徒指導主事】  
31件の回答



- 年齢構成は、50代3.2%，40代35.5%，30代51.6%，20代9.7%で、30代がおおよそ半数を占め、次いで40代が多い。20代の生徒指導主事もおおよそ1割である。
- 概ね身に付いていると思われる能力は、「生徒指導力」が最も多く、次いで「授業力」の順になっている。
- 「生徒指導力」の内、特に身に付けさせたいことは、「子供たちの人間性や社会性、生活習慣や規範意識を育むための適切な生活指導ができること」が最も多い。「授業力」では、「『授業のプロ』であるための基盤となる教科等に関する専門的知識や技能」が最も多い。
- 全ての学習活動の基盤とも言える基本的な生活習慣や規範意識を重んじ、核となって生徒指導に当たる生徒指導主事の力量に期待しているものと考えられる。また、授業力向上によって「分かる授業」を実践することが、生徒指導に関連すると捉えているものと思われる。

### 【質問】

「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成について、工夫されていることや実践されている取組、また、課題と感じていること等があれば、その内容を記述してください。

- ・協働的な学びの本質を教職員に理解してもらうよう折に触れて研修や説明を行っている。また、先進校の公開研究等への参加を勧めている。
- ・まだ多くの先生方は「生徒の学びを支援する」という考えより、「教授する」という考えの方が強いと感じている。ICTの活用を促しながら、生徒が主語になるような教育活動を教科指導、特別活動などで実践していくことができるよう働きかけていきたいと思う。
- ・社会の多様性が加速し、1人1台端末の普及により、「誰一人取り残さない教育」などの文言とともに、これまでと全く異なった教育活動が求められていると感じている教職員も多い。しかし、これまでも取り組んできた授業づくりや学級・学年経営などが基盤となっていることを学校全体で確認しながら、人材育成を進めていきたいと考えている。
- ・働き方改革の推進と令和の日本型学校教育を担う教師の育成にAIの教育介入が相まって、これから目指すべき教育の姿のイメージが難しい。
- ・研修にじっくり取り組ませたいと思っているが、目の前の出来事に忙殺されているのが現状である。研修のためには、多忙感を無くすことが先決である。

#### IV 成果と課題

本研究の方向性を検討する際に、東部地区の中学校長会全員に「今取り組むべき課題は何か」を問うアンケート調査を行った。全日本中学校長会の8つの研究協議題からの選択であったが、およそ4割の校長が「人材育成～令和の日本型学校教育を担う教員の育成～」を選んだことから、日々様々な課題に直面している校長の多くが「人材育成」を今取り組むべき課題として捉えていることが分かった。また、アンケート調査を通して、校長自身が「令和の日本型学校教育」を担う教員に必要な資質能力は何かを把握するよい機会となった。

アンケート調査の結果から、それぞれの職能における年齢構成や、概ね身に付いていると思われる資質能力の分析・考察を進めることで、教職経験段階において重点的に育成したい能力、今現在備わっていないと感じている能力が明らかとなった。東部地区では、宮城県が示

す「5つの教職経験段階」の基礎形成期などの早期段階で生徒指導主事や研究主任を担う教員が多いことから、早期にその資質能力を十分に育成する必要があることが課題として挙げられる。また、研究主任を除いたその他の職能では、共通して「自己研鑽力」を挙げる割合が低かった。研究主任は職務上の必要性から意識的に自己研鑽に努めているが、多忙な日々の中で、「自己研鑽の優先順位が低くなっている」と考える校長の多いことが分かる。自己研鑽を保障する環境づくりや、有効な研修の在り方等、次年度はさらに内容を焦点化し、研究を深めていきたい。

教育現場を取り巻く環境は日々変化しており、求められる教師像も多種多様になってきている。校長として、目の前にいる生徒や保護者、地域の信頼に応えることのできる教師の育成と「新たな教師の学びの姿」を実現する研修の在り方を考え、それぞれの学校をどのようにマネジメントしていくべきかを考えていきたい。

#### <研究部員>

後藤 正章	石巻市立湊中学校
齋藤 和宏	石巻市立河南東中学校
阿部 一彦	石巻市立北上中学校
北條 志伸	石巻市立牡鹿中学校
千葉 純子	登米市立登米中学校
谷田 敏幸	登米市立石越中学校
森 美紀子	登米市立津山中学校

## 編 集 後 記

令和6年度の宮城県中学校長会「紀要」の作成にあたり、会員、関係各位の御協力をいただきながら作業を無事完了し、皆様のお手許にお届けできますことを感慨深く存じております。

今年度の県研究協議会は本吉地区が担当し、限られた会員数という状況の中で着々と準備を進められ、当日は盛会に開催されました。また、全日中研究協議会岩手大会に、東北大会を兼ねるということで会員全員が出席し、国の教育施策の流れや、各都道府県・政令指定都市における教育課題の状況等をより身近に知る機会となりました。分科会では、東北地区を代表して本県東部地区の研究部が道徳教育に係る研究発表を行い、震災から13年経過後の本県教育の状況などを情報発信することができました。以上のような今年度の本会の歩みを、この紀要からも感じ取っていただければ幸いです。

関係の皆様には、御多用にもかかわらず、原稿執筆や研究のまとめ、更には「全日本中学校長会」の機関誌『中学校』への寄稿等にも御協力いただき、誠にありがとうございました。お陰様で、紀要作成に係る業務を滞りなく全うすることができ、情報部員一同、衷心より感謝申し上げます。

今後も、創意工夫しながら、「会報」「紀要」「ホームページ」等を通して宮城県中学校長会に関わる情報を発信してまいりますので、会員の皆様の一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

### 【情報部員】

	地区	氏名	学校名
部長	北部	佐々木 晃	古川中
副部長	仙台	白鳥 修	山元中
部員	大河原	鈴木直美	富岡中
部員	本吉	藤山 篤	津谷中
部員	東部	飯川弘芳	豊里小中

令和6年度

### 宮城県中学校長会紀要

令和7年3月1日発行

**発行** 宮城県中学校長会  
会長 橋元伸二

**編集事務局** 宮城県中学校長会 情報部  
〒985-0851  
多賀城市南宮字八幡170  
多賀城市立第二中学校内  
TEL (022) 309-1351  
FAX (022) 309-1352  
事務局員 佐々木奈美子

E-mail : miyagi-kochokai@wine.plala.or.jp

HP <http://www13.plala.or.jp/miyagi-jhs/>

HPはこちらから→



※令和7年度にHPをリニューアルし、URLが変更となる予定です。

印刷 有限会社 仙台大雅堂 〒980-0022 仙台市青葉区五橋2-4-15  
TEL (022) 227-4445 FAX (022) 274-5363